GO GLOBAL

東大から世界へ

東京大学 留学・国際交流ガイドブック 2019

THE UNIVERSITY OF TOKYO

Go Global

世界を知るということ

2018年も、語学力も国際経験も十人十色の東大生が、一歩を踏み出し、海外へ飛び出しました。
それはある人にとっては小さな一歩であり、またある人にとっては大きな一歩だったことでしょう。
世界を知り、また世界を知ることで日本を意識し、
世界の友人からの刺激と友情を胸に日本に戻った東大生たち。
彼らは、これまでの環境で身につけた能力に、海外での経験というスパイスを加え、
一味も二味も違う学生に成長し、決意を新たにそれぞれの場所で活動を始めています。
皆さんも、小さくて大きな、世界への第一歩を踏み出してみませんか。

世界に飛び立つ君たちへ: Go Global

東京大学理事・副学長　白波瀬 佐和子

グローバルな時代。ここでの「地球規模」という意味を、みなさん、実感することってありますか。東京大学での生活の中で、「グローバルな今」を感じることは、実のところそれほど多くないのではないでしょうか。日本の外にでてみると、当然のこととしてやってきたことが、実はそれほどやさしいことではなかったり、実は多くの人たちに助けられていたり、といったことが見えてきます。日常使うことばが違って、食べ物や食べ方が違う。生活慣習が違って、さまざまな流儀も違う。そんな環境に身を置いてみるのが留学です。

五神総長が提唱する「知のプロフェッショナル」(「東京大学ビジョン2020」)とは、東京大学憲章にも謳われる「世界的視野をもった市民的エリート」とも関連して、国際感覚を有し、「他分野や異文化と積極的な対話と協働を進め、その知見を主体的な行動によって社会にフィードバックできる人材」とされています。

東京大学では、「東京大学から世界へ」というキャッチフレーズのもと、留学を実現するための計画作りや応募方法についての情報や奨学金情報の提供から、全学レベルや学部・研究科レベルで提供されている国際関連プログラムや先輩たちの留学体験の紹介を行っています。一度、Go Global ウェブサイト(https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/)を訪問してみてください。

2018年4月から「国際総合力認定制度(Go Global Gateway)」がはじまりました。それは、世界の多様な背景をもつ人々と触れあい、共に生活し、共感することができる力を国際総合力と捉えて、一人でも多くのみなさんが自身の総合力を上げていくことを応援するプログラムです。そこでは、海外に出かけるだけでなく、東京大学で提供されている外国語による授業の履修や、新しい外国語を修学することも、国際総合力の一つとしてカウントされます。同プログラムで大切なポイントは、自らが世界に向かって、自ら行動し、自ら係りをもち、グローバル感覚を磨いていくことです。いくら素晴らしいチャンスが沢山用意されていても、その存在に気づき、自ら獲得しないと、チャンスはどこかに行ってしまいます。さぁ、扉を開けて飛び立ってみてください。東京大学は、そんな君たちを応援します。

CONTENTS

はじめに
ー留学・国際交流を成功させるためにー ····· p4-6

Ⅰ 留学・国際交流プログラムの紹介 ····· p7-34

1. 留学・国際交流プログラム
（グローバルキャンパス推進本部担当） ·· p8-21

1）全学交換留学 ····· p8-13

2）UC派遣プログラム ····· p14-15

3）全学短期派遣プログラム ····· p16-21

2. 留学・国際交流プログラム
（その他のプログラム） ····· p22-34

1）GLP-GEfIL東京大学グローバルリーダー育成
プログラム ····· p22

2）教養学部前期課程 主題科目「国際研修」・
後期課程「後期国際研修」 ····· p23

3）体験活動プログラム・海外企業体験活動
····· p24-25

①体験活動プログラム ····· p24
②東大生海外体験プロジェクト（海外企業体験活動）
····· p25

4）各学部・研究科の取り組み ····· p26-30

①学部・研究科間交換留学 協定校一覧 ····· p26-28
②各学部・研究科によるプログラム ····· p29-30

5）学内でできる国際体験 ····· p31-33

6）国際総合力認定制度（Go Global Gateway）
····· p34

Ⅱ 留学・国際交流関連情報
····· p35-49

1. 情報収集方法 ····· p36-37

2. 留学にかかる費用と奨学金 ····· p38-41

1）費用と奨学金例 ····· p38-39

2）支援者及び先輩奨学生の声 ····· p40-41

3. 留学における学籍・単位認定 ···· p42-43

4. 語学能力検定試験 ····· p44

5. 安全と危機管理 ····· p45

6. 留学と就職活動 ····· p46

7. 卒業後の大学院留学 ····· p47

8. よくある質問 ····· p48-49

はじめに ー留学・国際交流を成功させるた めにー

計画を立てよう

東京大学の中ではもちろん、大学外でも留学・国際交流プログラムを目にする機会がたくさんあると思います。自分がいま、どのようなプログラムに参加したいか、はっきりと決まっていますか?プログラムへ応募する前に、目的やスケジュールをよく考えて計画を立てましょう。

留学経験者の声を読む

●プログラムに参加する目的は?

プログラムによって、学習内容や活動内容が異なります。「自分の専攻分野に関する知識を深めたい!」「専攻以外の分野を広く学びたい!」「海外で通用する語学力を身につけたい!」など、在学中の限られた期間で何を達成したいのか、自分の目的とプログラムの趣旨を照らし合わせてみましょう。

＼参考にしてみよう／

留学経験者の声からヒントを得よう

各プログラムのページで内容を確認しよう

国際総合力認定制度(Go Global Gateway) p34

●プログラムの実施期間・時期は?

1週間の短期プログラムから、1年間海外の大学で勉強する留学など、期間は様々です。また、夏休みなどの休暇を利用したプログラムや、大学内でお昼休みに開催されるプログラムなどもあります。自分の授業計画やカリキュラムなどと照らし合わせてみましょう。

＼参考にしてみよう／

全学交換留学募集サイクル p8

全学短期派遣プログラム年間募集サイクル p16

学内でできる国際体験 p31

●自分の予算とプログラム費用は?

プログラムには参加費無料のもの、奨学金付きのものなどもあります。プログラムの要項などから費用を確認しましょう。また、外部団体の奨学金に応募することも可能な場合があります。留学などへ申請する前から応募可能な奨学金もあるため、プログラムの募集スケジュールと奨学金の募集スケジュールをよく確認しましょう。

＼参考にしてみよう／

各プログラムのページで費用を確認しよう

留学にかかる費用と奨学金 p38

情報を集めよう

自分に適した留学・国際交流プログラムを見つけるために、情報収集はとても大切です。以下のようなツールを活用して、主体的に情報を集めましょう。また、実際にプログラムに参加した学生の体験談なども貴重な情報源です!

●所属学部・研究科で情報を集めよう

各学部・研究科にて、様々な国際交流プログラムや学部・研究科間交換留学なども行われています。各プログラムの情報を集めるだけでなく、留学に際して重要となる単位認定、学籍、授業履修などの相談もしておきましょう。

＼参考にしてみよう／

各学部・研究科の取り組み p26

留学における学籍・単位認定 p42

●タイムリーに情報を集めよう

どの学部・研究科の学生でも応募することができるグローバルキャンパス推進本部が担当するプログラムの情報やイベント情報などが届くSNSも活用して、最新情報を集めます。タイムリーに情報のは、「Go Global ウェブサイト」で発信しているようにしましょう。

Go Global ウェブサイトにアクセス

Go Global ウェブサイト:
https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/

＼参考にしてみよう／

情報収集方法 p36

●直接話して相談しよう

春の留学フェア、秋の留学説明会などのイベントに参加してみましょう。様々なプログラムの詳細な情報を得られるだけでなく、留学を経験した学生に直接相談できるチャンスです。

2018年春の留学フェアの様子

応募条件をクリアしよう

応募したいプログラムが決まったら、プログラム募集要項などで応募資格・条件を確認しましょう。多くのプログラムで、応募する時点で語学能力などの条件を満たしている必要があります。計画的に応募資格・条件をクリアしましょう。

●応募資格・条件の例

語学能力

プログラムが定める語学試験を受け、応募する時点で基準に達している必要があります。試験によっては年に数回しか受験できないもの、結果・スコアが出るまでに時間がかかるものもあるため、計画的に受験しましょう。

学業成績

留学プログラムや奨学金の選考では学業成績が考慮される場合がほとんどです。ただし、志望動機・学習計画・面接・語学力等も含めて総合的に選考されるので、積極的にチャレンジしてください!

東京大学への在籍

東京大学が企画するプログラムや東京大学を通じて応募するプログラムの多くで、プログラム期間中を通して東京大学に在学していること、プログラム期間中に卒業・修了しないことを条件としている場合があります。事前に募集要項をよく確認しましょう。

その他

プログラムによって、年齢、学年、専門分野、今までに履修した授業など、細かい条件が定められている場合があります。

＼参考にしてみよう／

各プログラムのページで条件を確認しよう

語学能力検定試験 p44

どんなプログラムに参加する?

東京大学でできる留学・国際交流プログラムの紹介

東京大学には、数多くの留学・国際交流プログラムがあります。「多すぎてどのプログラムに参加すればいいかよく分からない……」という方のために、ここではプログラムを目的別に紹介します。対象学生はプログラム・コースごとに異なることがありますので、必ず各プログラムのページ等で確認してください。

★学部前期課程学生対象　★学部後期課程学生対象　★大学院学生対象

長期間海外で生活し、現地の大学でしっかり学びたい

★★★交換留学　→p8, p26
★★★UC派遣　→p14

海外経験もないし語学も苦手…それでもチャレンジしたい

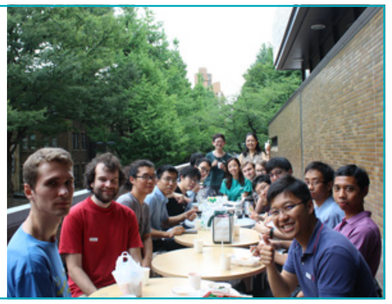
★★★全学短期派遣プログラム　→p16
★★体験活動プログラム　→p24
★★主題科目「国際研修」　→p23

グローバルに活躍する人材になりたい

★★GLP-GEfIL東京大学グローバルリーダー育成プログラム　→p22
★国際総合力認定制度（Go Global Gateway）　→p34

東京大学のキャンパス内で国際交流・「留学」がしたい

★★★ICYou, International Friday Lounge　→p33
★★★国際化教育支援室・グローバリゼーションオフィスの活動　→p31
★★★スペシャル・イングリッシュ・レッスン（SEL）　→p33
★★UTokyo Global Summer Program 開講コース　→p31



他にもプログラムはたくさんあります。さあ、踏み出そう!

Ⅰ

留学・国際交流プログラムの紹介 p7-34

1. 留学・国際交流プログラム（グローバルキャンパス推進本部担当）・・・・・・・・ p8-21
1）全学交換留学 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p8-13
2）UC派遣プログラム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p14-15
3）全学短期派遣プログラム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p16-21

2. 留学・国際交流プログラム（その他のプログラム） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p22-34
1）GLP-GEfIL東京大学グローバルリーダー育成プログラム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p22
2）教養学部前期課程 主題科目「国際研修」・後期課程 「後期国際研修」 ・・・・・・・・・・・・ p23
3）体験活動プログラム・海外企業体験活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p24-25
①体験活動プログラム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p24
②東大生海外体験プロジェクト（海外企業体験活動） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p25
4）各学部・研究科の取り組み ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p26-30
①学部・研究科間交換留学 協定校一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p26-28
②各学部・研究科によるプログラム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p29-30
5）学内でできる国際体験 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p31-33
6）国際総合力認定制度（Go Global Gateway） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p34

1. 留学・国際交流プログラム
（グローバルキャンパス推進本部担当）

1）全学交換留学

概要

東京大学と東京大学の協定校（※1）が1学期～1年間学生を交換する留学プログラムを交換留学と呼びます。東京大学が授業料を徴収せずに協定校の学生を受け入れる代わりに、東京大学の学生は東京大学に授業料を納めれば、留学先での授業料を支払わずに協定校で授業を履修したり、研究指導を受けたりすることができます。これを大学全体で実施するものが「全学交換留学」であり、各学部・研究科が独自に行うものを「学部・研究科間交換留学」と呼びます。
全学交換留学のプログラムではどの学部・研究科の学生でも応募することが可能です。

全学交換留学の詳細はこちら

※1 東京大学が学生交流覚書を締結している海外大学のこと。
※本ページの情報は2019年4月1日現在の情報です。変更される場合がありますので、詳細は最新の募集要項を確認してください。

https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-USTEP.html

留学時期と募集スケジュール

1学期間あるいは1年間が一般的な留学期間です。実際の詳細な留学期間は留学先の協定校の学事暦（Academic Calendar）（※2）に基づきます。1年間の留学を希望する場合は、原則として秋学期からの1年間となりますが、春学期が学事暦の1学期目となる大学については、春学期開始の1年間の留学が可能です。
学内募集は年に2回行います。
①秋募集（7～11月頃）：翌年の秋学期留学開始分・翌々年の春学期留学開始分を募集
②春募集（秋募集の翌年の4～6月頃）：翌年の春学期留学開始分を募集（※3）

※2 海外の大学は一般的に1学期目:秋学期（8～10月開始、12月終了）、2学期目:春学期（1～2月開始、4～5月終了）の2学期制が多いです。また、2020年の秋学期（1学期目）～2021年の春学期（2学期目）という海外大学の1学年（Academic Year）を学内募集では2020-2021年期（AY2020-2021）と呼んでいます。
※3 前年度の秋募集で余った派遣枠及び春募集までに加わった新規協定校の派遣枠を募集します。

《メリット》

①評価の高い協定校への留学
東京大学の協定校は世界的に評価の高い教育機関です。事前に多くの情報が得られ、現地でのサポート体制も充実しています。

②留学先の協定校では授業料の支払いが不要
留学先の授業料が不要になる代わりに、東京大学の授業料は納める必要があります。（※4）

③協定校では交換留学生として優遇
宿舎を優先的に確保してもらえたり、留学生用カウンセリングを受けられたりなど、特段の配慮をしてもらえるケースがあります。

④留学で取得した単位を互換
協定校で取得した単位が東京大学の単位として認定される可能性があります。（※5）

⑤プログラム付属の奨学金に申請可能（返済不要）
支給額は年度や地域によって異なりますが、月5万～10万円ほど支給されます。また、東京大学や民間財団などが募集する他の奨学金への応募も可能です。（p38参照）

《主な資格・条件（一例）》

●留学期間を通じて東京大学の正規課程に在学する者。留学期間内に東京大学を卒業・修了する者、東京大学の学部から大学院に進学する者は対象外です。

●協定校が定める交換留学生の資格・条件を満たす者。（語学能力、所属学部・研究科、学年　等）

《選考方法》

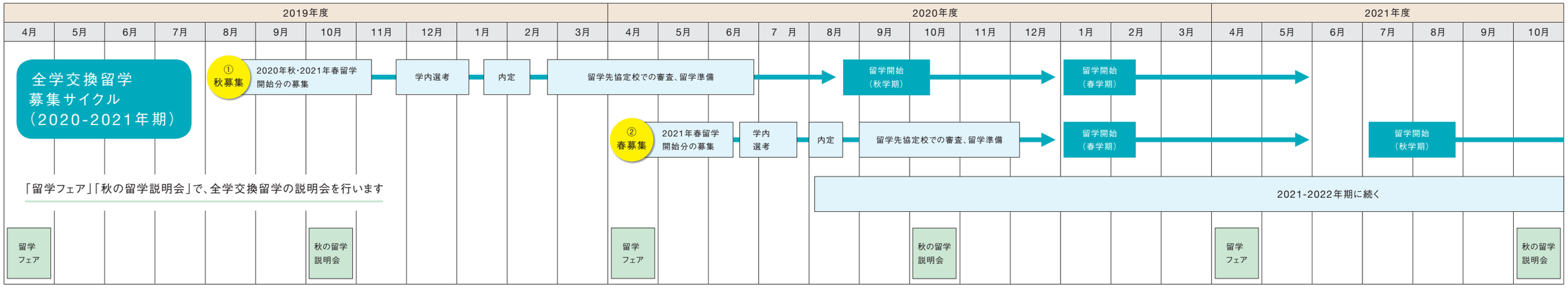
①学内審査（書面・面接審査）
書面・面接審査により学内選考を行います。審査では、学業成績・語学能力・申請書の記述内容や面接等が総合的に考慮されます。

②協定校での審査（書面審査）
学内選考を通過した学生は協定校が定める申請書類を作成します。東京大学が留学先の協定校へ学生を推薦し、協定校で審査が行われます。協定校での審査を通過すると、留学決定です!

※4 留学期間中の身分は「休学」ではなく「留学」となり、東京大学の授業料を納める必要があります。大学院生の場合、その活動の実態により「留学」又は「研究指導の委託」の手続きを取ることになります。
※5 認定の基準は所属する学部・研究科により異なり、履修した科目によっては認定されない場合もあります。留学時の学部・研究科の担当窓口に事前に相談しましょう。（p42参照）

全学交換留学等経験者のインタビューはこちら

https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/career-why.html



※2019年4月1日現在の予定であり、変更される場合があります。このスケジュールは全学交換留学のものであり、学部・研究科間交換留学については、学部・研究科ごとに異なります。

全学交換留学協定校一覧

※院（M）は修士のみ

国・地域	協定校	対象	2018-2019 派遣実績（人）
台湾	国立交通大学	学部/院	0
台湾	国立台湾大学	学部/院	1
中国	上海交通大学	学部/院（M）	0
中国	清華大学	学部/院	3
中国	浙江大学	学部/院	-
中国	南開大学	学部/院	0
中国	南京大学	学部	0
中国	復旦大学	学部	0
中国	北京大学	学部/院	2
香港	香港大学	学部/院	0
香港	香港科技大学	学部	0
インドネシア	ガジャマダ大学	学部/院（M）	1
韓国	高麗大学校	学部/院（M）	0
韓国	ソウル大学校	学部/院	0
韓国	浦項工科大学校	学部/院	0
韓国	延世大学校	学部/院（M）	0
マレーシア	マラヤ大学	学部/院（M）	0
フィリピン	フィリピン大学	学部/院（M）	0
シンガポール	シンガポール国立大学	学部	5
シンガポール	ナンヤン工科大学	学部/院	0
タイ	チュラロンコン大学	学部/院	0
ブラジル	サンパウロ大学	学部/院	0
チリ	チリ大学	学部/院（M）	0
チリ	チリ・カトリック大学	学部/院（M）	0
メキシコ	エル・コレヒオ・デ・メヒコ	学部/院	0
メキシコ	メキシコ国立自治大学	学部/院	0
カナダ	トロント大学	学部/院	5
カナダ	ビクトリア大学	学部	0
カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	学部/院	4
カナダ	マギル大学	学部	0
アメリカ	イェール大学	院	0
アメリカ	イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校	学部	6
アメリカ	ジョンズ・ホプキンス大学	学部	2
アメリカ	スウァスモアカレッジ	学部	1
アメリカ	ノースイースタン大学	学部	1
アメリカ	プリンストン大学（学部）	学部	1
アメリカ	プリンストン大学（大学院）	院	2
アメリカ	ワシントン大学	学部/院（M）	3
オーストラリア	アデレード大学	学部/院（M）	0
オーストラリア	オーストラリア国立大学	学部	3
オーストラリア	クィーンズランド大学	学部/院（M）	0
オーストラリア	シドニー大学	学部/院	2
オーストラリア	ニューサウスウェールズ大学	学部/院	0
オーストラリア	メルボルン大学	学部/院	4

国・地域	協定校	対象	2018-2019 派遣実績（人）
オーストラリア	モナシュ大学	学部/院（M）	0
ニュージーランド	オークランド大学	学部/院（M）	1
ニュージーランド	オタゴ大学	学部/院（M）	0
デンマーク	コペンハーゲン大学	学部/院（M）	5
フィンランド	ヘルシンキ大学	学部/院（M）	3
フランス	エコール・ポリテクニーク	学部/院（M）	1
フランス	グルノーブル・アルプ大学	学部/院（M）	1
フランス	EHESS(社会科学高等研究院)	院	1
フランス	ストラスブール大学	学部/院	1
フランス	パリ政治学院	学部/院（M）	3
ドイツ	ケルン大学	学部/院	1
ドイツ	ベルリン自由大学	学部/院	0
ドイツ	ミュンヘン・ルートヴィヒ=マクシミリアン大学	学部/院	3
アイルランド	トリニティカレッジ・ダブリン	学部/院	1
アイルランド	ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン	学部/院	1
イタリア	ローマ大学ラ・サピエンツァ	学部/院	1
オランダ	フローニンゲン大学	学部/院（M）	0
オランダ	ライデン大学	学部/院（M）	3
ロシア	サンクトペテルブルク大学	学部/院	2
スペイン	マドリード自治大学	学部/院	1
スウェーデン	ウプサラ大学	学部/院	2
スウェーデン	スウェーデン王立工科大学	学部/院	3
スウェーデン	ストックホルム大学	学部/院	3
スウェーデン	ルンド大学	学部/院（M）	4
スイス	ジュネーヴ大学	学部/院	3
スイス	スイス連邦工科大学チューリッヒ	学部/院	9
英国	ウォーリック大学	学部	2
英国	エクセター大学	学部	2
英国	グラスゴー大学	学部/院（M）	2
英国	サウサンプトン大学	学部	1
英国	シェフィールド大学	学部	1
英国	ダラム大学	学部	4
英国	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン	学部/院（M）	3
英国	ロンドン大学東洋アフリカ学院	学部/院（M）	3
英国	ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス	学部	-

※2019年2月1日現在、交換留学を実施するため、東京大学が学生交流覚書を締結している協定校を掲載しています。覚書の更新や取扱いの検討等により調整中につき掲載されていない協定校があること、掲載されていても当該年度に交換留学を実施していない場合もあることに注意してください。※浙江大学、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンスは2019-2020から募集を始めました。※過去の詳細な派遣実績等はGo Global ウェブサイト（https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/top-data.html）に掲載しています。

派遣実績はこちら

全学交換留学 体験記

氏名：小川 友希さん
所属・学年（留学開始時）：農学生命科学研究科1年
留学先大学：ルンド大学 生物学部
留学期間：2017年8月～2018年6月（10ヶ月間）

スウェーデン人は"Fika"というおやつタイムをとても大切にしています。コーヒーもお菓子も美味しいし、しょっちゅうFikaがあるので私もFikaが大好きになりました。

北国の厳しい自然の美しさと人と関わる温かさを実感した一年間

①留学を決めたきっかけ
幼少期から外国で暮らすことに漠然とした憧れを持っていました。具体的に長期留学を決意したのは大学3年の夏休みに3週間程スウェーデンの語学学校に短期留学し、もう一度ここで勉強したいと感じたためです。

②留学先を選んだ理由
環境先進国スウェーデンで持続可能性戦略や自然保護について学びたいという学問的な理由と幼い頃から大好きな作家アストリッド・リンドグレンが描くスウェーデンの豊かな自然を見たいという個人的な理由があります。

③留学先での勉強内容
研究施設・発電所・農科大学・自然保護区を見学し多様な持続可能性戦略を学びました。また自然保護戦略の一環として野外調査で植物から野鳥まであらゆる生物の個体数を計測し、生態系評価マップを作成しました。

④留学先を勧める点
移民受け入れ国家なので外国人が暮らしやすい仕組みが整っています。ほぼ全ての国民が英語を不自由なく話せる点、治安が比較的良い点も安心して日常生活を送れる理由の一つです。

自然保護の授業では受講している学生と交流する機会が多く、スウェーデンでの環境教育や自然保護に対する国民の見解、価値観の多様性について話したことが印象深かったです。また、シェアハウスを通じて様々な背景をもつ他国の留学生と生活を共にした経験は自分の価値観に大きな影響を与えました。国が違えば「当たり前なこと」が違い、一緒に生活するためには話し合って価値観をすり合わせたり、自分の意見をはっきり主張する必要があることを痛感しました。留学中は見ること・聞くこと・会う人の何もかもが新鮮でたくさんのことを吸収するチャンスだと思うので、勇気をもってオープンマインドで新しい環境に飛び込んでみてください!

費用と奨学金

・家賃/寮費（光熱費含む）	6.6万円/月
・食費	2万円/月
・渡航費	20万円
・娯楽費（旅行等含む）	30万円
・その他（教科書代・保険代等）	22万円
・奨学財団からの奨学金	10万円/月

全学交換留学 体験記

氏名：東影 将希さん
所属・学年（留学開始時）：法学部3年
留学先大学：清華大学 法学部
留学期間：2017年9月～2018年7月（10ヶ月間）

はじめは右も左もわからず様々な人に助けてもらいました。留学は大変なことばかりではなく、人の優しさを知ることのできる機会でもありました。今でも友人との関係は大切にしています。

百聞は一見に如かず

①留学を決めたきっかけ
中学生の頃から中国の歴史に興味があって本を読んでいました。大学に入ってから中国語を学び始め、交換留学という便利な制度があることを知り、現代の中国を体験してみたいと思いました。

②留学先を選んだ理由
中国語だけでなく、英語の授業も充実している環境の下で海外での学びを体験したいと思い、総合大学で、英語のプログラムが多く、交換留学生に開放されている授業が多い大学を選びました。

③留学先での勉強内容
法学・政治・国際関係・中国語を勉強しました。インプット・アウトプット両方の授業がありましたが、履修人数に上限があり、ディスカッションがある授業では特に教授や周囲の学生との関係が濃かったと思います。

④留学先を勧める点
国際的で学問の分野も広く、設備の面でも不自由ない場所だと思います。中国との関わりは今後も増えていくと思うので、英語だけでも留学できますし、ぜひ挑戦してみてほしいです。

留学先のことは実際に行ってみないとわからないところがあります。渡航前に考えていた計画通りにいかないことも多いです。準備不足を痛感したこともありました。ただ、約1年とはいえ時間は限られているので、現地で新しくやってみたいと思ったことに取り組んでみることも大切だと思います。交換留学はコーディネートされたプログラムとは違うので、自主的に行動する必要があります。当初は慣れない生活に翻弄されましたが、振り返ってみて、日本ではできないようなチャレンジができたと思います。成功も失敗もありましたが、結果を恐れず取り組むことができるのが学部段階での留学の醍醐味だと思います。

費用と奨学金

・家賃/寮費（光熱費含む）	4万円/月
・食費	1万円/月
・渡航費	7万円
・娯楽費（旅行等含む）	10万円
・その他（教科書代・保険代等）	5万円
・プログラム付属の奨学金	6万円/月

全学交換留学 体験記

氏名：藤田 結さん
所属・学年（留学開始時）：教養学部3年
留学先大学：ブリティッシュ・コロンビア大学（UBC） Faculty of Arts
留学期間：2017年9月～2018年4月（8ヶ月間）

キャンパスはダウンタウンからバスで30分ほど。自然に恵まれ、広大なキャンパス内には様々な庭園や農園、ビーチがあるほか、人類学博物館や自然史博物館などの施設も充実していました!

カナダ・バンクーバーで「考える」を学ぶ

①留学を決めたきっかけ
幼い頃からの外国への憧れ・外国語への興味に加え、女性の権利という分野との出会いがきっかけです。ジェンダー研究が盛んな国でジェンダーを学んで、女性のエンパワーメントに何が必要なのか考えたいと思いました。
②留学先を選んだ理由
ジェンダーを勉強するにあたり、多様な人々が集まる環境の中に身を置き、多様な価値観を吸収したいと考えました。UBCはアジア研究も盛んで、日本のジェンダー観を外から見直すのに適していると考えました。
③留学先での勉強内容
ジェンダーの授業を中心に受講しました。基礎的な概念や歴史的背景を学ぶとともに、アジア地域に焦点を当てたジェンダーの授業やカナダのジェンダーの歴史に関する授業を履修し、女性の権利への学びを深めました。
④留学先を勧める点
カナダ・バンクーバーは「人」に恵まれた場所です。英語以外を母語とする人が多く、多様な価値観や考え方にふれることができたほか、学業面に関しても、学生の意欲に答えようとする教授の献身的な姿が印象的でした。
学生の知的好奇心の高さと知識習得にとどまらない学びの深さに刺激を受けました。特に、習った知識を応用する力が重視されており、単なる学問的な知識をためることではなく、それをどう生かすか、さらに、自分で「考える」ことの重要性を実感しました。留学を経て、女性の権利への興味と専攻する国際関係論とのつながりを見出すことができたことも大きな収穫となりました。異文化の地で日本との違いに戸惑い、大量のリーディング課題を前に力不足を感じることも多くありましたが、自分と、世界と向き合って、考えの次元を上げられるように勉学に励んだこの8ヶ月間は卒業を一年延ばしてでも必要な期間だったと感じています。

費用と奨学金

・家賃/寮費（光熱費含む）	7.5万円/月
・食費	2万円/月
・渡航費	15万円
・娯楽費（旅行等含む）	5万円
・その他（教科書代・保険代等）	15万円
・プログラム付属の奨学金	8万円/月
・奨学財団からの奨学金	20万円

全学交換留学 体験記

氏名：柳本 和春さん
所属・学年（留学開始時）：経済学部4年
留学先大学：コペンハーゲン大学 Department of Economics
留学期間：2017年9月～2018年6月（10ヶ月間）

大学構内あちこちで毎週金曜日に開かれるFriday Bar というパーティーがあります。ビールを飲みながら、ゲームをしたり、踊ったりとヨーロッパらしいパーティーで友達を作るいい機会でした。

リスクマネジメントとしての留学

①留学を決めたきっかけ
大学3年の夏にスペインの北部を1ヶ月間バックパッカーの旅をしていた時に、様々な人との交流の中で今後の人生を考え、日本語しか喋れず日本の暮らししか知らない無知への漠然とした焦りを感じ、留学を決めました。
②留学先を選んだ理由
世界一幸福な国と言われる北欧諸国の暮らしぶりに興味がありました。また、コペンハーゲンは高い英語使用率、治安の良さ、美しく計画された都市など、とても洗練された街だと感じたことも理由の一つです。
③留学先での勉強内容
東京大学経済学部では学びにくい、行動経済学とデータサイエンスを勉強しました。行動経済学は実証論文を30本以上読み、データサイエンスではPythonを用いて最新の分析手法の基礎を学びました。
④留学先を勧める点
世界一幸福なデンマークの社会にも光と陰があります。彼らの行ってきた移民政策や手厚い社会保障制度は、日本の未来の一つのモデルケースです。彼らの生活や考え方に直に触れることは、示唆的な経験になるでしょう。
これからの時代に活躍していく私たちにとって、英語を使えないこと、日本以外の在住経験がないことは、今後大きく人生の選択肢を狭めることになるでしょう。その意味で留学とは日本というリスクに対するヘッジであり、大学生はある程度身分が保証されており、その投資行為を最も低リスクで行える時期です。近視眼的に見れば、留学を諦める理由はサークル、就職活動、英語力などに容易に求められるでしょうが、大局的に見ればそれらは多くの場合取るに足りません。準備の煩雑さなどに負けずに、Leap Before Look の姿勢でとりあえず留学してみたらどうでしょう。

費用と奨学金

・家賃/寮費（光熱費含む）	9万円/月
・食費	3万円/月
・渡航費	15万円
・娯楽費（旅行等含む）	20万円
・その他（教科書代・保険代等）	10万円
・プログラム付属の奨学金	8万円/月

全学交換留学 体験記

氏名：松本 光暁さん
所属・学年（留学開始時）：経済学部4年
留学先大学：メルボルン大学
留学期間：2017年7月～2018年6月（12ヶ月間）

全豪オープンテニスやAFL、サッカー、メルボルンカップなどスポーツ観戦がとても盛んな国です。スポーツ好きな人も今はそうでない人も気軽に楽しめると思います。

文化多様性の国、オーストラリアで学ぶ

①留学を決めたきっかけ
以前から、海外の国に一定期間住んで外部から見た日本について学びたいと思っていました。また英語力に関しても日常的に使うことによって集中的に向上させたいと考えていました。
②留学先を選んだ理由
日本がどう見られているかということに興味があったので、日本と親しい国を選びました。また英語が使えるように英語が母語の国で経済学が学べるところを選びました。
③留学先での勉強内容
日本の学部での勉強内容の延長として経済学の中のゲーム理論について学びました。また実際の意思決定にはその人の心理状態が関係していることに思い至り、心理学についても勉強しました。
④留学先を勧める点
アジア系とヨーロッパ系が程よいバランスでミックスしているので色んな国の友達ができます。またメルボルンの都市もコンパクトにまとまっていてかつ治安も良いのでとても過ごしやすいです。
メルボルン大学で学び始めてすぐに大学の部活に所属して活動していました。またオーストラリアでは学生ビザでアルバイトをすることが許されているので、学校生活と並行して現地のレストランでアルバイトしていました。僕は留学する前まで英語が苦手な方だったので、実生活の中でお金を稼ぎながら英語を勉強する場があったのはとても有益でした。また日本よりも物価が高い分、アルバイトの最低賃金なども日本の2倍ほど高いので助かりました。交換留学は長くても一年なので早めに所属コミュニティを作るのが良いと思います。

費用と奨学金

・家賃/寮費（光熱費含む）	12万円/月
・食費	5万円/月
・渡航費	12万円
・娯楽費（旅行等含む）	36万円
・その他（教科書代・保険代等）	12万円
・プログラム付属の奨学金	7万円/月

全学交換留学 体験記

氏名：長谷川 理彩さん
所属・学年（留学開始時）：医学部3年
留学先大学：ライデン大学 Faculty of Social and Behavioural Science
留学期間：2017年9月～2018年7月（10ヶ月間）

オランダ人の人生の楽しみ方には学ぶべき点がたくさん!夕方になるとみんな運河沿いのテラスでお酒を飲んでいるのを見ると思わず自分も混ざりたくなっちゃいます!

最高にChallenging but Excitingな一年

①留学を決めたきっかけ
日本の健康を考えているうちに、海外との違いに興味がでてきて、海外で生活しながら健康について多視点から学び、ライフワークバランスなど社会的なものも肌で感じたいと思ったからです。
②留学先を選んだ理由
ライデン大学は私が興味ある心理学のレベルが高く、社会的にも男女平等やライフワークバランスが整っていると聞き、たくさん学べることがあると感じたからです。オランダでは英語が通じるというのも理由の一つです。
③留学先での勉強内容
主に心理学を中心に学びました。心理学の入門、メンタルヘルスのそれぞれの疾患について（生物学的な視点も含め）、文化の違いによる疾患の違い、臨床心理士になるための技術なども学びました。
④留学先を勧める点
ライデン大学にはたくさんの国からの学生が集まっており、留学生に対するサポートが充実しています。色々な人と関われる機会も多くあり、充実した留学生活が送れると思います。街並みも綺麗で人もとても優しいです。
留学では様々なことに挑戦する機会がたくさんあり、うまくいかない時や、辛い時期ももちろんありました。でもそれ以上に得るものは大きかったです。家族のサポート、新しい友達の優しさ、現地の人の笑顔に支えられ、成長を感じられる一年を過ごすことができました。現地の大学の授業でグループプレゼンを行ったり、オーケストラに入ってみんなでフランス・スペインツアーに行ったり、友達と異国の料理パーティを行ったり等とても素敵な思い出ばっかりです。勉強以外でも、オランダ人の生活の仕方・働き方・考え方から学んだことは今後の私の人生にすごく影響すると思いました。

費用と奨学金

・家賃/寮費（光熱費含む）	8.6万円/月
・食費	3万円/月
・渡航費	22万円
・娯楽費（旅行等含む）	50万円
・その他（教科書代・保険代等）	20万円
・プログラム付属の奨学金	8万円/月

2）UC派遣プログラム

（カリフォルニア大学バークレー校・デービス校派遣プログラム）

概要

米国カリフォルニア大学（UC）2校との協力により、東京大学の学生を1学期～1年間派遣する留学プログラムです。バークレー校のAmerican and International Study Program（AISP）ではアメリカ政治と国際関係を勉強します。デービス校のGlobal Study Program（GSP）ではデービス校で開講されているほぼ全ての授業から履修することができ、また、語学コースも実施されています。

《メリット》
交換留学以外の方法で長期の留学が可能です。基本的に授業料等の費用は全て自己負担となりますが、東京大学や民間財団などの留学用の奨学金に応募することもできます。

《募集・選考スケジュール》
例年3月～4月上旬頃に募集を行います。学内選考を通過した学生は、カリフォルニア大学各校へ直接申請を行います。

プログラム詳細

プログラム名	留学時期	費用（授業料）	募集人数	語学条件※
カリフォルニア大学 バークレー校　AISP	Fall:8～12月 Spring:1～5月	約24,000ドル / Semester（宿泊費込み）	5名程度	TOEFL iBT 90 IELTS 7.0 （Academic Module）
カリフォルニア大学 デービス校　GSP	Fall:9～12月 Winter:1～3月 Spring:4～5月	6,825ドル / Quarter（宿泊費別）	20名	TOEFL iBT 61-80 IELTS 6.0-7.0 （Academic Module）

※TOEFL iBT/IELTSのほか、UCバークレー校ではCambridge Proficiency Exam, Cambridge Certificate of Advanced Englishを、UCデービス校ではTOEFL PBTを受け付けています。また、UCデービス校では保有するスコアによって、取れるコースが異なります。詳細は募集要項を確認してください。
※本ページの情報は2019年4月1日現在の情報です。変更される場合がありますので、詳細は最新の募集要項を確認してください。

詳細はこちら

https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/application-tips-UC.html

UC派遣 体験記

氏名：小山 愛さん
所属・学年（留学開始時）：文学部3年
留学先大学：カリフォルニア大学バークレー校
留学期間：2016年8月～2017年5月（10ヶ月間）

大統領選挙に対する大学の反応が印象に残っています。教授やTAが結果にショックを受けてしまい、中間試験が延期になったり、講義が休講になったりしました。

You Only Live Once

①留学を決めたきっかけ
一つ目は英語力を向上させるため、二つ目は異文化交流、三つ目にリベラルな環境で勉学に励むためです。元々バックパッカーでしたが、旅行だけでは学びの経験として不十分だと感じ、留学を決意しました。

②留学先を選んだ理由
学校、土地ともに魅力ある場所だからです。世界トップの公立校でありながらも批判精神に富んだ校風に惹かれました。さらにカリフォルニアは観光地も多く、余暇も充実させたかったためです。

③留学先での勉強内容
政治科学部で国際関係、国際倫理学、アメリカ政治、共産主義国家の盛衰を学び、Ethnic Studies Departmentでアメリカの移民や人種差別問題を学びました。

④留学先を勧める点
充実した講義、施設、勉学はもちろんですが、International Houseという留学生向けの寮もバークレーならではです。留学後も会える仲間が世界中にできました。

AISPプログラムでは政治科学部を中心に、現地学生と同じ講義を三つまで受講できます。私は政治科学系と社会学系を受講しました。毎週大量のリーディング・ライティングに加え、中間試験が複数回課されます。課外活動では大学のアニメクラブに所属したり、学外でホームレスに食事を提供するボランティアに参加したりしました。余暇はアメリカ国内やキューバ、ドミニカ共和国、メキシコを旅行しました。日常生活から学問まで様々な困難や葛藤がありますが、留学を後悔したことは一度もありません。卒業を延長して将来を熟考することもできます。興味があるならばまずは一歩を踏み出して、自分の可能性に挑戦してみてください。

費用と奨学金

・家賃/寮費（光熱費含む）	30万円/月
・食費	（家賃に含まれる）
・渡航費	18万円
・娯楽費（旅行等含む）	30万円
・その他（教科書代・保険代等）	3万円
・プログラム付属の奨学金	8万円/月

※このほか、左ページに記載のある授業料等がかかります。

UC派遣 体験記

氏名：文 剛英さん
所属・学年（留学開始時）：経済学部3年
留学先大学：カリフォルニア大学デービス校
留学期間：2017年9月～2018年6月（10ヶ月間）

アメリカで年齢確認などをする際Photo IDが必須なのですが、パスポートを持ち歩くのは危ないので、国際学生証を作っておくといいと思います!あと国際免許証も忘れずに!

異国に根をおろすということ

①留学を決めたきっかけ
グローバルに活躍できるキャリアを希望しており、英語力の向上と豊富な海外経験が必要だと考えていた中、東京大学のプログラムでUCSDに短期留学し、アカデミックで多様性に富んだ雰囲気に魅了され、留学を決めました。

②留学先を選んだ理由
UC派遣プログラムは9月開始に対して学内応募締切が同年4月と遅く、UCSD訪問以降最も早く留学することが可能だったからです。

③留学先での勉強内容
プログラムの性質上、学部生の授業であればなんでも（満員でない限り）履修することができるので、専攻の経済学のみならず、少し非母語話者には挑戦的な人文系（文化人類学、哲学）やプログラミングも勉強しました。

④留学先を勧める点
デービスはサンフランシスコから車で2時間の小さな大学都市。治安も全米でトップクラスに良いので安心して留学生活を送るには最高の街だと思います。キャンパスは広くて移動には自転車が必須です。

長期留学の意義は実際に“異国の地に根をおろすこと”だと思います。短期留学でも海外文化や英語を十分体感できますが、それは異文化体験のワクワクとある種の“お祭り気分”の高揚感を必然的に伴います。飲み会での話が聞きとれなくて萎えたり、パーティーでの周りのハッチャケ具合にビビったり、入国するまで自分の住居が決まらず焦ったり、サークルのケースコンペティションでうまくいかずに凹んだり、ルームメイトとガチで喧嘩して仲直りする、と言った“旅行”以上の体感は“異国に根をおろす”からこそでしょう。学生のうちに“異国文化を全身で体感し自らの文化を相対化する”という体験は、必ず将来の自分の助けとなると信じています。

費用と奨学金

・家賃/寮費（光熱費含む）	8万円/月
・食費	2万円/月
・渡航費	15万円
・娯楽費（旅行等含む）	20万円
・その他（教科書代・保険代等）	5万円
・プログラム付属の奨学金	8万円/月

※このほか、左ページに記載のある授業料等がかかります。

3）全学短期派遣プログラム（サマー&ウインタープログラムなど）

Motivation for your Future

「自分の語学力を把握できた」「積極的なディスカッションの面白さを知った」「大切な友人が世界にできた」など、短期間の留学でも長期的な収穫を得ることができます。

全学短期派遣プログラムの長所

- 期間が短いので費用を抑えられる
- 様々な内容・行先のプログラムがある
- より長期・専門的な留学の準備になる

全学短期派遣プログラムの種類

ここでは、全学短期派遣プログラム（グローバルキャンパス推進本部が実施する、全ての学部・研究科の学生が参加できる可能性がある短期留学プログラム）の種類を説明します。各プログラムへは、東京大学を通じて応募する必要があります。

グローバルキャンパス推進本部担当サマープログラム

夏季休業期間中に実施されるプログラムです。東京大学が海外の協定校と連携して、東京大学の学生のために企画運営する、または協定校の既存のプログラムをカスタマイズして実施するプログラムです。内容はプログラムにより講義（語学または特定テーマ）、フィールドワーク、現地学生との交流、文化体験など様々です。

2019年度開催予定プログラム
- 北京大学・清華大学・東京大学合同サマープログラム
- ソウル大学校・東京大学合同サマープログラム
- シェフィールド大学サマープログラム
- ウォーリック大学サマープログラム
- ストックホルム大学サマープログラム
- チュラロンコン大学サマープログラム

グローバルキャンパス推進本部担当ウインタープログラム

春季休業期間中に実施されるプログラムです。サマープログラムと同様に、東京大学が海外の協定校と連携して、東京大学の学生のために企画運営、または協定校の既存のプログラムをカスタマイズして実施されます。内容はプログラムにより講義（語学または特定テーマ）、フィールドワーク、現地学生との交流、文化体験など様々です。

2019年度開催予定プログラム
- カリフォルニア大学サンディエゴ校ウインタープログラム
- オタゴ大学ウインタープログラム
- インドネシア大学ウインタープログラム
- 浙江大学ウインタープログラム
- INSA Lyonウインタープログラム

協定校・大学連合・国内外の機関等が主催するプログラム

上記以外にも、東京大学が加盟する大学連合や、国内外の大学・機関が実施し、東京大学の学生のために参加枠が設定されたプログラムがあります。（p18参照）

グローバルキャンパス推進本部担当サマー・ウインタープログラム一覧

最新情報をウェブサイトで確認

各プログラムについて、下記の一覧やGo Global ウェブサイトにある過去のプログラム情報及び最新情報を参考に参加を検討してください。

※全学短期派遣プログラム紹介: https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short.html

	プログラム名	開催地	期間	プログラム費用（航空賃、食費等は別途自己負担）	奨学金（注1）	募集人数	語学レベル	備考
サマープログラム 注2	北京大学・清華大学・東京大学合同サマープログラム	中国・日本	2週間	3万円	6万円	15名	英語でディスカッション等ができる	フィールドワーク＋講義等
	ソウル大学校・東京大学合同サマープログラム	韓国・日本	約3週間	5万円	7万円	15名	英語でディスカッション等ができる	フィールドワーク＋講義等
	シェフィールド大学サマープログラム	英国	3週間	1,265ポンド程度	8万円または16万円	20名程度（学部学生）	中級（TOEFL iBT 65～80程度目安）	語学研修＋講義等
	ウォーリック大学サマープログラム	英国	4週間	2,396ポンド程度	8万円	20名程度（学部学生）	中級（TOEFL iBT 70以上目安）	語学研修＋講義＋ホームステイ等
	ストックホルム大学サマープログラム	スウェーデン	1週間	6,650スウェーデンクローナ程度	8万円	15名（学部学生）	英語でディスカッション等ができる	フィールドワーク＋講義等
	チュラロンコン大学サマープログラム	タイ	2週間	11万円	7万円	15名	中級（TOEFL iBT 64、TOEIC 600、IELTS 5.0以上目安）	フィールドワーク＋講義等
ウインタープログラム 注2	カリフォルニア大学サンディエゴ校ウインタープログラム	米国	2週間	2,900米ドル程度	8万円または16万円	24名程度（学部学生）	中級（TOEFL 65～80、TOEIC 650～750目安）	講義＋フィールドワーク等
	オタゴ大学ウインタープログラム	ニュージーランド	3週間	2,701ニュージーランドドル程度	7万円	20名程度（学部学生）	問わない	語学研修＋講義聴講＋ホームステイ等
	インドネシア大学ウインタープログラム	インドネシア	2週間	10万円	7万円	15名程度	中級（TOEFL 64、TOEIC 600、IELTS 5.0以上目安）	英語による講義＋文化体験等
	浙江大学ウインタープログラム	中国	2週間	6万円	6万円	15名程度	中国語学習歴は問わない	中国語講座＋文化体験＋学生交流等
	INSA Lyonウインタープログラム	フランス	2週間	1,495ユーロ	8万円	10名程度（学部学生）	中級～上級（TOEFL 80程度、TOEIC 750、IELTS 6.5以上目安）	講義＋フィールドワーク＋語学学習等

※こちらの一覧は2018年度開催プログラムの募集要項に掲載した情報をもとに作成しています。2019年度開催時には変更される場合があります。詳細は最新の募集要項を確認してください。
（注1）2018年度は、要件を満たす者かつ希望者にのみ支給。2019年度は条件および金額が変更される場合があります。
（注2）2019年2月1日現在での開催予定プログラムであり、変更される場合があります。

全学短期派遣プログラム年間募集サイクル

全学短期派遣プログラムのうち、グローバルキャンパス推進本部担当サマー・ウインタープログラムの募集サイクル例です。

グローバルキャンパス推進本部担当サマー・ウインタープログラムに限らず、短期派遣プログラムの多くは夏季（6月～8月頃）、冬季（1月～3月頃）に実施されます。募集期間が短く締切が早いプログラムも多いため、参加可能なプログラムの選択肢を広げるには、TOEFL・IELTS等を予め受験し、必要なスコアを所持しておくことが大切です。
※こちらの募集サイクルは2018年度実績をもとに作成しているもので、変更される場合があります。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
サマープログラム募集時期 ○情報収集・学内申請書作成 ○5月下旬頃学内応募締切 ★説明会も開催されます		○学内選考（書面） ○留学開始までの手続きプログラム開講		プログラム開講							
					ウインタープログラム募集時期 ○情報収集・学内申請書作成 ○11月上旬頃学内応募締切 ★説明会も開催されます		○学内選考（書面） ○留学開始までの手続きプログラム開講			プログラム開講	

協定校・大学連合・国内外の機関等が主催するプログラム例

最新情報をウェブサイトで確認

グローバルキャンパス推進本部担当サマー・ウインタープログラム以外にも、東京大学の協定校が実施するプログラムや東京大学が加盟する大学連合・国内外の機関が実施し、東京大学の学生向けに参加枠が設定されたプログラム、費用の一部を主催者が負担する海外研修や学生会議なども毎年多数実施されています。ここで紹介しているのは、実施されるいくつかのプログラム例です。毎年内容が異なるプログラムもありますので、最新情報はGo Global ウェブサイトでご確認ください。

※全学短期派遣プログラム紹介: https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short.html

プログラム名		開催地	時期	プログラム費用（授業料・宿泊費）	募集人数（注1）	語学レベル	募集開始	応募締切	備考
東京大学の協定校等が実施するプログラム	Berkeley Summer Sessions	米国	5～8月の3～10週間	コースにより異なる	30名	コースにより異なる	12月	2月	奨学金8～48万円を支給（注2）
		カリフォルニア大学バークレー校（以下、UCバークレー）が実施するサマーセッション。毎年夏に、5つの異なる期間のセッションで、600を超える多様な分野の授業が開講されます。受講学生の多くはUCバークレーの学生ですが、全米および世界各地からも3,000名を超える学生を受け入れています。							
	UC Davis Global Study Program- Summer Sessions	米国	6～9月の6～12週間	コースにより異なる	20名	コースにより異なる	12月	2月	奨学金16～48万円を支給（注2）
		カリフォルニア大学デービス校がパートナー大学の学生向けに実施するThe Global Study Program（GSP）のサマーセッション。英語能力により受講コースが分かれており、関心とレベルに応じて授業を選択できます。							
	香港大学Learn, Live and Intern in China（LLIC）プログラム	香港	6～8月の8週間	奨学財団が負担	3名	英語力を駆使して十分なコミュニケーションがとれる	1月	2月	奨学金14万円を支給（注2）
		4日間の香港大学での英語による講義と7週間のインターンシップ（上海）を組み合わせた、香港大学が実施するサマープログラム。参加者の半数は香港大学の学生、残りの半数が世界の一流大学から参加しています。授業料・宿泊料・香港ーインターンシップ先の航空賃はThe Victor and William Fung Foundationの支援により無料となります（p41参照）。							
	Nobel Week Program	スウェーデン	12月の1週間程度	1,000スウェーデンクローナ（宿泊費別）	5名	英語でディスカッション等ができる	9月	10月	
		NSHSS（National Society of High School Scholars）とストックホルム大学がノーベル賞授賞式の時期に合わせてストックホルム大学で実施する学生交流プログラム。ストックホルム大学訪問（スウェーデンやノーベル賞についての講義聴講含む）、ノーベル賞関連施設訪問、ノーベル賞受賞者（物理・化学・経済学）の講演聴講、ノーベル委員会の教授らとの交流、公開シンポジウム（Nobel Week Dialogue）出席などを行います。							
	パリ政治学院（Sciences Po）European Studies Programme	フランス	2～3月の4週間程度	4,000ユーロ程度	7名程度	上級（TOEFL iBT 87、またはIELTS 6.0必須）	10月	11月	奨学金10万円を支給（注2）
		日本のパートナー大学向けに開催される、EU（欧州連合）の歴史、政治、法律、経済などに関する講義やディスカッションを通して学ぶプログラム。希望者はフランス語講座も受講可能です。							
東京大学が加盟する大学連合等が実施するプログラム	IARU Courses	加盟大学	コースにより異なる	コースにより異なる	各コース若干名	コースにより異なる	12月	2月	奨学金6～24万円を支給（注2）
		IARU（International Alliance of Research Universities、国際研究型大学連合）は、将来の世界的リーダーを養成するトップクラスの11研究大学による、教育研究における連携推進を目的として2006年に設立された大学連合です。そのIARUに加盟する世界トップレベル大学が提供する短期留学プログラムです。 【加盟大学】 オーストラリア国立大学、スイス連邦工科大学チューリッヒ校、シンガポール国立大学、北京大学、ケープタウン大学、カリフォルニア大学バークレー校、ケンブリッジ大学、コペンハーゲン大学、オックスフォード大学、イェール大学、東京大学							
	AUAが実施するプログラム	加盟大学	プログラムにより異なる	派遣先大学が一部負担するプログラムも多い	若干名	プログラムにより異なる	随時	随時	
		AUA（Asian Universities Alliance、アジア大学連盟）は、アジアの国・地域を代表する15大学で構成され、加盟大学間の連携強化を通じて、地域・世界の重要な諸課題に取り組むことを目的として2017年に設立された大学連合です。プログラムは毎年異なります。過去に開催されたプログラムの例、最新情報・詳細はGo Global ウェブサイトをご参照ください。 【加盟大学】 清華大学、北京大学、香港科学技術大学、ソウル大学校、シンガポール国立大学、チュラロンコン大学、インドネシア大学、マラヤ大学、コロンボ大学、キングサウード大学、ナザルバエフ大学、ヤンゴン大学、アラブ首長国連邦大学、IITボンベイ、東京大学							
国内外の機関が実施するプログラム	ストックホルム国際青年科学セミナー	スウェーデン	12月の1週間程度	国際科学技術財団が負担	若干名	英語力を駆使して十分なコミュニケーションがとれる	5月	8月	
		ノーベル財団の協力でスウェーデン青年科学者連盟が主催しているセミナー。将来の科学技術を担う世界の優秀な若者が一堂に会し、1週間の日程で交流するプログラム。ノーベル賞授賞式への出席のほか、他国学生との交流やストックホルム近郊の大学や研究機関への訪問、ノーベル賞受賞者による講演等に参加します。							

※こちらの一覧は2018年度開催プログラムの募集要項に掲載した情報をもとに作成しています。2019年度開催時には変更される場合があります。詳細は最新の募集要項を確認してください。
（注1）東京大学内での募集人数です。　（注2）2018年度は、要件を満たす者かつ希望者にのみ支給。2019年度は条件および金額が変更される場合があります。

短期プログラム 体験記

氏名：横江 きららさん
所属・学年（プログラム参加時）：教養学部2年
参加プログラム：ソウル大学校・東京大学合同サマープログラム
留学期間：2018年8月（約20日間）

ソウル大学校は驚くほど広く、一つの町と言っていいほどの規模でした。キャンパス内にバスやタクシーが走っており、非常に興味深かったです。

ソウル留学で夏を満喫

①留学を決めたきっかけ
長い夏休みを有効に活用したいと思っており、また東アジアの外交に興味があったので、20日間ソウル大生と過ごすことのできる本プログラムに参加しました。

②プログラムの内容
前半の10日は東京で、後半の10日はソウルで行われました。平日の午前は教授の講義を聞き、午後は外務省や企業を訪問するなど、授業の内容に関連したフィールドワークを行いました。

③プログラムを勧める点
講義やフィールドワークの内容が非常に濃くとても魅力的です。また、プログラム期間が比較的長いので、一緒にプログラムに参加した仲間とプログラム終了後にも長く続く交友関係を築くことができます。

このプログラムは、講義、ディスカッション、フィールドワークなどを通していろいろな観点から日韓について学ぶことができる非常に充実したものでした。授業内で慰安婦問題や領土問題についてソウル大生とディスカッションをしたことが特に印象に残っています。週末には韓国の民族衣装を着て観光したり、美味しい韓国料理を囲んでソウル大生と話し込んだりすることで、メディアを通してだけでは感じ得ないソウルの面白さを体感しました。講義やソウル大生との会話はほとんど全て英語で行われましたが、ソウル大生には日本語を話すことができる生徒がたくさんいて驚きました。また、この留学を通して日本を客観的に見ることができるようになったと感じています。非常に有意義な20日間を過ごすことのできるおすすめのプログラムです。

費用と奨学金

・渡航費	5万円
・プログラム費（宿泊費を含む）	5万円
・その他（娯楽費・保険代等）	5万円
・プログラム付属の奨学金	7万円

短期プログラム 体験記

氏名：江崎 愛梨さん
所属・学年（プログラム参加時）：教養学部2年
参加プログラム：ウォーリック大学サマープログラム
留学期間：2018年8月（1ヶ月間）

イギリスはご飯がおいしくないといわれていますが、ホストファミリーが作る食事や大学のレストランの食事はどれもおいしかったです。ただ食材に偏りがあり、じゃがいもをほぼ毎日食べました。

異なる文化を楽しむ

①留学を決めたきっかけ
高校1年生の時に2週間イギリスに行く機会があり、とても楽しくイギリスが好きになったので、その頃よりも英語力が上がっている状態でまた行ってみたいと思い、参加しました。

②プログラムの内容
イギリスのウォーリック大学で1ヶ月の間、東大生用に作られた授業を受けました。内容はただの講義だけではなく、ディベートやシェイクスピアの劇をやるなど多岐に渡り飽きなかったです。

③プログラムを勧める点
このプログラムは語学力を向上させたい、イギリスの文化にふれたい、という人におすすめです。授業の面白さもさることながら、寮生活ではなくホームステイをすることでイギリスの生活を肌で感じることができます。

私は、高校1年生の時に2週間イギリスにホームステイしていたのですが、その時とは期間も環境も異なっていて大変刺激的な毎日を過ごすことができました。休日には自由に観光ができ、バーミンガムやケンブリッジなどに行きました。今回の経験を通して私は、海外に行ったら日本との違いを楽しむべきだと感じました。ホストファミリーに教えてもらったバスが大学にたどり着かなくて最初はとても焦りましたし、正しいバスに乗っても日本のようにアナウンスがないのでどこのバス停で降りたらいいかわからず迷ったこともありました。現地の人に道を尋ねて、なんとか家にたどり着いたとき、なんともいえない喜びを感じました。そのようなトラブルがあっても落ち込むことはなく、むしろ今しかできない体験にとてもワクワクしていたことを覚えています。

費用と奨学金

・渡航費	17.6万円
・プログラム費（宿泊費を含む）	34.5万円
・その他（娯楽費・保険代等）	8万円
・プログラム付属の奨学金	8万円

短期プログラム 体験記

氏名：新田 陸磨さん
所属・学年（プログラム参加時）：教養学部1年
参加プログラム：ストックホルム大学サマープログラム
留学期間：2018年9月（10日間）

ストックホルムは何と言っても街が美しく全てが絵になります。料理も美味しく、成人の方はお酒もオススメです。日々が新鮮な驚きで溢れ、参加したらきっと世界観が変わる10日間になりますよ!

人生が変わる10日間をスウェーデンで

①留学を決めたきっかけ
スウェーデン自体に興味があった上、プログラム中にフィールドワークができるというのが魅力的で、超高税率のスウェーデンで軽減税率と消費活動の関係性を調査したくてこのプログラムに参加しました。

②プログラムの内容
プログラム期間は10日間ほどで、平日は午前と午後にそれぞれノーベル賞に関係する講義を受け、休日はストックホルム市内を観光、授賞式の行われる市庁舎や自然博物館を訪れました。様々な先端研究に触れられました。

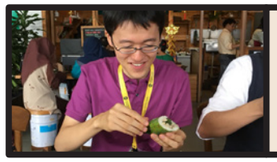
③プログラムを勧める点
ノーベル賞に関する様々な研究だけでなく、スウェーデンの文化にも広く触れることができます。また、フィールドワークでは現地の学生と関われた他、ノーベル賞選考者や大使館の方の貴重なお話も伺えました。

このプログラムの参加者は1～4年生まで、学部の垣根を超えて幅広く集まったため、学内の様々な人と関われるのが魅力の一つです。自由時間はほぼ一緒に行動したので、10日間でかなり仲良くなることができました。また、講義では最先端の技術に触れたり、素晴らしい研究者達と語ったりでき、学術面での充実度も最高です。フィールドワークでは自分の興味のある分野に関して自由に調べられるので、僕は衣装代に関して軽減税率と消費活動の関係性を調査でき、新たな発見につなげることが出来ました。一方で、生活面では、「ヨーロッパの日本」と呼ばれるスウェーデンは、安全性も高く、料理も日本人の舌にピッタリで、街の人々も温かく、素敵な時間を過ごせました。特に、街で出会う人全員が英語を話せるので語学力向上にも繋がりました。

費用と奨学金

・渡航費	19万円
・プログラム費	0.6万円
・宿泊費	4.6万円
・その他（娯楽費・保険代等）	9万円
・プログラム付属の奨学金	8万円

短期プログラム 体験記



氏名：畑仲 基希さん
所属・学年（プログラム参加時）：教養学部1年
参加プログラム：インドネシア大学ウインタープログラム
留学期間：2018年2月（2週間）

渡航前には詳細な内容が明示されず、渡航後も日程が随時変更になるなど、良くも悪くも柔軟性に富んだプログラムでした。そういった点も含めて、インドネシアを体験することができたと思います。

インドネシアを肌で感じた貴重な2週間

①留学を決めたきっかけ
イスラム教に律せられた社会がどういったものであるのかというのを一度体験してみたかったことが大きかったです。また、東南アジアにも関心があったので、その中で最大の人口を誇る大国を見てみたいとも思い、参加しました。

②プログラムの内容
前半1週間は、午前中にインドネシアの外交、経済、歴史に関する授業が行われ、午後には語学学習などを含む文化体験が行われました。後半1週間は、基本的にプレゼンテーションの準備と本番に充てられました。

③プログラムを勧める点
留学というと欧米や東アジアを想像しがちですが、今後日本にとって、ますます重要になってくるであろう東南アジアについての見聞を広げることのできるいい機会になると思います。

様々なインドネシア・イスラム教の事情を現地の学生に聞くことができたのは、とても大きな収穫になりました。同時に、やはり日本のことについて説明を求められる機会が多いので、外国の人とよりしっかりコミュニケーションを取るためにも、日本に帰ってから身の周りで起きることに対してもっとアンテナをしっかり張ろうとも思いました。もちろん2週間で得られたことも多いのですが、一方で、短期の滞在ではどうしてもいい面だけを見て終わってしまったという側面も否めないような気もします。より長期の滞在を通して、さらに多角的にインドネシアに対する理解を深めたいとの思いも抱くようになりました。そういう意味では、インドネシアに限らず、より長期の留学のための動機作りとしてもこのプログラムは最適であるように感じました。

費用と奨学金

・渡航費	7万円
・プログラム費（宿泊費を含む）	10万円
・その他（娯楽費・保険代等）	3万円
・プログラム付属の奨学金	7万円

短期プログラム 体験記

氏名：広瀬 凜さん
所属・学年（プログラム参加時）：教養学部2年
参加プログラム：Berkeley Summer Sessions（カリフォルニア大学バークレー校）
留学期間：2018年7月～2018年8月（3週間）

大学周辺の街でも夜は治安が悪かったり、女子一人で歩いていると声をかけられたり、強盗が目の前で起きて銃を持った警官が集まってきたりといった経験をし、だいぶ肝が据わったように思います。

地球規模で感じる「縁」

①留学を決めたきっかけ
中学生の時に家族旅行でUC Berkeleyのキャンパスを訪れて以来、カリフォルニアの開放的かつアカデミックな雰囲気に憧れを持っており、ぜひ一度学生としてバークレーで学んでみたかったため、参加しました。

②プログラムの内容
期間と日程によって5セッションに分かれ、それぞれ多様な分野の講義や語学の授業が開講されています。セッションEではアメリカ文化や社会起業についてなど様々なテーマのクラスがあり自由に選ぶことができました。

③プログラムを勧める点
自身が興味ある授業を自由にとりながら、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどでクラスが進む海外式の教育スタイルを経験できる点です。中国系が多い西海岸の雰囲気を感じることができます。

寮に滞在していたので、中国人留学生のルームメイト二人とは将来の話や恋バナまでする仲となり、最後には三人でバンドを組んでタレントショーに出たりもしました。また、渡航前の5月にたまたまUC Berkeleyの人達が東京に来る機会があり、その際に東京大学のキャンパスを案内したり交流会を企画して仲良くなったため、夏に彼らとアメリカで再会することができたのは大きな喜びでした。彼らのホームパーティに呼ばれてさらに友人の紹介を受けたり、地元の教会などローカルコミュニティに混ぜてもらい、そこで出会った人たちとは倫理観や人生観など深い話をする機会にも恵まれました。またバークレー附設の広大な植物園や、地元で有名な博物館などにも足を運び、ただ観光するだけに留まらない充実した放課後や週末を過ごすことができました。

費用と奨学金

・渡航費	20.7万円
・プログラム費	33.2万円
・宿泊費	15.1万円
・その他（娯楽費・保険代等）	5万円
・プログラム付属の奨学金	8万円

短期プログラム 体験記

氏名：甘粕 隆志さん
所属・学年（プログラム参加時）：教養学部2年
参加プログラム：Learn, Live and Intern in China（香港大学）
留学期間：2018年6月～2018年8月（2ヶ月間）

会社に卓球をする部屋やヨガをする部屋などがあって、休み時間に気軽に使えたのが印象的でした。昼休みにヨガ教室も行われていて、毎週参加していたので他の部署の人達とも仲良くなることができました。

巨大な国、中国で働いた2ヶ月

①留学を決めたきっかけ
中国の産業や文化に関心があったことに加えて将来のキャリアを見つめて実際の職場体験がしたいと考えたからです。また、語学力の向上を図ろうと考えたことも理由の1つです。

②プログラムの内容
香港大学での中国についての講義（1週間）と 上海でのインターンシップ（8週間）を組み合わせたプログラムです。2ヶ月の間中国に住み、中国について知り、中国でインターンシップをすることができます。

③プログラムを勧める点
実際に中国に住んで中国企業に入ってインターンシップをするため、中国の産業について実情をよく知ることができる点と、英語や中国語で臆せずにコミュニケーションをとることができるようになる点です。

私は2ヶ月の間、国際的なコンピュータ企業であるLenovoの上海工場でインターンシップをしました。主な仕事は工場での生産状況についてデータを整理して報告書を書くことでしたが、様々な施設なども見学させてもらい、中国の産業について多くの知見を得ることができました。同僚との会話や仕事内容は中国語であることが多く、ある程度は中国語が使えることが望ましいと思います。一方、アメリカ、イギリス、香港の大学から来ている他のインターン生と一緒に行動を共にすることも多く、彼らとは英語を用いてとても仲を深めることができました。全体として、人の多さ、市場の大きさ、自然の多さ、施設の大きさなど、中国の巨大さを実体験として感じることができ、とても実のあるプログラムとなりました。

費用と奨学金

・渡航費	4万円
・プログラム費（宿泊費を含む）	Fung Scholarships（p41参照）
・その他（娯楽費・保険代等）	10万円
・プログラム付属の奨学金	14万円

2. 留学・国際交流プログラム
（その他のプログラム）

1）GLP-GEfIL東京大学グローバルリーダー育成プログラム

GLP-GEfIL（Global Education for Innovation and Leadership）は、国際社会における指導的人材の育成を目的とした学部学生対象の特別教育プログラムです。GLP-GEfILでは、プログラムの一環として、世界トップレベルの大学の厳選された海外プログラム等に、修学中に2回参加する機会を設けています。また、海外派遣にあたっては、協賛企業の寄付による奨学金（地域、期間等に応じて最高100万円まで）を支給します。
GLP-GEfILは、語学力や意欲等により選抜された学生が履修できます。学部2年生（PEAK学生は1年生）を対象に、年度に一回、選抜を行います。詳細はウェブサイトをご覧ください。
[GLP-GEfILウェブサイト] http://www.glp.u-tokyo.ac.jp
[facebook] https://www.facebook.com/Utokyo-Glp-Gefil-東京大学グローバルリーダー育成プログラム-589069901189419/

GLP-GEfIL海外プログラム派遣先例（2019年度）

プログラム名	開催地	期間
LSE-PKU Summer School in Beijing	中国	8月 2週間
Stanford Summer International Honors Program（SSIHP）	アメリカ	6～8月 8週間
Harvard Summer School	アメリカ	6～8月 7週間
Yale Summer School	アメリカ	5～8月 5週間
University of British Columbia, Vancouver Summer School	カナダ	6～8月 4週間
Pembroke-King's Summer Programme	イギリス	7～8月 6週間
LSE Summer School	イギリス	6～8月 3週間
Oxford: International Politics Summer School	イギリス	7～8月 2週間
Geneva Graduate Institute Summer Programme	スイス	6～8月 2週間
Munich Summer Program 'Management Practices and Corporate Communications in a Global Environment'	ドイツ	8月 3週間
RWTH Aachen University Engineering Summer School	ドイツ	6～8月 4週間
Helsinki University Summer School	フィンランド	8月 2週間
Summer School in Global Health Challenges, Copenhagen	デンマーク	8月 2週間
HEC Paris Summer School	フランス	6～7月 2週間
Grotius Centre for International Legal Studies（Leiden University）	オランダ	7月 2週間
LSE-University of Cape Town	南アフリカ	6～7月 2週間

※上記はGEfIL履修生を対象として2019年度に提供する海外プログラムの一部です。詳細はウェブサイトをご覧ください。http://www.glp.u-tokyo.ac.jp/gefil/abroad/

GLP-GEfILの概要

❶GEfIL実践研究：学生自身が関心を持つ地球規模の問題を対象に、創造的・学術的な研究プロジェクトを設計・実施していくことを目標とします。
❷GEfIL海外プログラム：3年次及び4年次に、世界トップレベルの大学の厳選された海外プログラムやインターンシップ、海外でのボランティア活動に参加します。
❸グローバルリーダー講義：世界の第一線で活躍しているビジネスリーダー、起業家、国際的専門家を迎えて行う講義です。
❹GEfIL共通授業科目：高度なグローバル教養や、実践的な外国語能力の育成、アカデミック・スキルの獲得等を目指して、実践研究のテーマを深める授業科目群です。

協賛企業

東京大学グローバルリーダー育成プログラムの海外派遣の奨学金は、趣旨にご賛同いただいた下記の企業様の支援によって実現しています。
株式会社IHI、旭化成株式会社、アステラス製薬株式会社、エーザイ株式会社、ABB株式会社、大塚製薬株式会社、JFEホールディングス株式会社、塩野義製薬株式会社、住友商事株式会社*、住友生命保険相互会社、住友不動産株式会社、武田薬品工業株式会社、東海旅客鉄道株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、東レ株式会社、日本調剤株式会社、野村證券株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、富士電機株式会社、株式会社三井住友銀行、三井不動産株式会社、株式会社三菱ケミカルホールディングス、三菱重工業株式会社、三菱電機株式会社、株式会社LIXIL（2019年2月1日現在）
*住友商事株式会社は、東京大学GLPリーディング・パートナーです。
本プログラムに関するお問い合わせはGLP推進室までお願いします。e-mail: glp-gefil.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

GLP-GEfIL
ウェブサイトに
アクセス

2）教養学部前期課程　主題科目「国際研修」・後期課程「後期国際研修」

「国際研修」「後期国際研修」は、学生が異なる言語・文化の環境に触れ、国際交流の現場を体験し、グローバルな視野を養うことを目標とする授業です。授業内容としては、（1）海外教育機関との共同プログラム、（2）現地の学生との合同見学・合同実習等を含む短期の海外研修、（3）海外の学生との合同国内研修、といった様々な活動があります。そのような機会によって得られる成果が単位として認定されます。
本授業の多くは、6～9月中旬、1月末～3月に実施されます（海外に渡航する前に、通常のセメスター／ターム中に事前講義を実施する場合もあります）。
「国際研修」「後期国際研修」の受講にあたっては、海外渡航経験の有無は問いません。むしろ、学生にとってのはじめての海外経験を、後押しする科目です。進んで自分の視野を開こうとする、学生の積極的な参加姿勢がのぞまれます。
なお、授業によっては、参加者の選抜を行ったり、ある水準以上の語学力を求めたりする場合があります。学生が負担する費用については、授業によって異なるので、詳細はそれぞれの授業のシラバスを参照し、ガイダンスで説明を受けてください。ガイダンスはA/Sセメスター開始直後に実施されますので、Global Komaba（http://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp）のウェブサイトに掲載されるスケジュールをご確認の上、是非ご参加ください。

詳細はこちら

これまでに以下の授業が複数回実施されています。

講義題目	研修地
UTokyo Summer Internship Program in Kashiwa	日本
ソウル大学校韓国語研修サマープログラム	韓国
EUの政治	ドイツ
ドイツ語サマースクール	ドイツ
TLPフランス語特別研修	フランス
平和のために東大生ができること	カザフスタン／トルクメニスタン
短期集中英語:オーストラリアで上級を目指す!	オーストラリア
中国語トライリンガルプログラム生向け台湾研修	台湾

※上記の授業の開講は年度によって変更される場合があります。
※本科目についてのお問い合わせ先:教養学部 国際交流センター グローバリゼーションオフィス 21KOMCEE West B1F（go@global.c.u-tokyo.ac.jp）

プログラム参加者の声

ボン・ドイツ語サマースクールに参加した学生の声

私は今まで外国に行ったことがなかったので、今回の研修が初めての海外でした。ドイツ語の学習を始めてまだ日も浅く、あまり多くは喋れませんでした。さらに、周りに帰国子女が多い中、自分は英語も話したり聞いたりすることに関してはあまり得意ではないため、不安も多かったのです。しかし、想像していた以上に充実した2週間となりました。ドイツ語や英語の学習に対するモチベーションが一気に上がり、色々な施設を自分の目で見学し、TLPのみんなとの繋がりも深まり、本当に有意義で、終わってほしくない、幸せで貴重な2週間でした。普段日記などはつけないのですが、この2週間の出来事は細かいことまで日記につけました。いつまでも忘れたくない、一生の思い出です。
※右の写真はボン・ドイツ語サマースクール以外のプログラムの写真も含まれています。

3）体験活動プログラム・海外企業体験活動

①体験活動プログラム

体験活動プログラムは、学部学生の皆さんが今までの生活と異なる文化・価値観に触れ、新しい考え方を身に付けることを目指したプログラムです。奨励金の支給等による経済的な支援があり、皆さん自身もプログラムの企画・実施に携わることができます。
これまで、ニューヨークで働くOB・OG訪問など国際・就労体験、院内学級における学習支援などボランティア、北海道の農場・牧場作業など農林水産業・地域体験、学内研究室での研究体験など、正課授業では経験することが難しいさまざまな機会を提供しています。海外で実施する国際交流体験活動プログラムの多くは、夏季・春季休業期間を中心に1週間～1ヶ月程度活動するものです。自由な時間を利用して、積極的に参加してください。
URL: https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html

今年度実施するプログラム、
過去に行われたプログラム報告書については
体験活動プログラムのウェブサイトをご参照ください

国際交流　体験活動プログラム一覧（2018年度版）

開催地	時期	期間	プログラム名（通称）
中国（北京・上海）	3月	10日	中国訪問 + キャンパスツアーと学生交流
中国（上海）	3月	11日	上海および上海近郊の地方都市を中心とした国際交流体験活動
韓国（ソウル）	8月	9日	大学・企業・文化体験 in 韓国2018年　―韓国を知る、韓国から日本を見る―
シンガポール	9月	9日	シンガポールでビジネスを学んでみよう
ミャンマー	8月	8日	医学と平和
インド（ムンバイ）	2月	8日	新興国インドでの体験活動-インド赤門会との交流・インド工科大学（IIT）日本語授業サポート-
スリランカ	8～9月	9日	スリランカでSDGsフィールドワーク体験"SDGs Field work experience in Sri Lanka"
オーストラリア	8～9月	4日	Healthy Humpbacks（ザトウクジラの健康調査）
イギリス（オクスフォード）	8～9月	30日	TOPS 2018（Tokyo Oxford Programme of Summer 2018）
イギリス（ロンドン）	2～3月	8日	英国ロンドン、海外で働くとは
フランス（パリ）	3月	14日	フランスEcole Polytechniqueにおける研修（理系）
イタリア（ヴェネツィア）	3月	15日	VE_italia·Veneto Experience
スウェーデン（ストックホルム）	9月	8日	スウェーデン王立工科大学（KTH）での国際交流活動体験 日本語授業サポートと企業訪問
UAE（ドバイ・マスダール・アブダビ）	9月	10日	アラブ首長国連邦の「いま」:沸騰都市ドバイ,未来都市マスダール,石油都市アブダビ
サウジアラビア（リヤド）	8～9月	10日	サウジアラビア プリンセス・ヌーラ大学　国際交流体験活動
アメリカ（ケンブリッジ）	8月	11日	ハーバード大学医学部研究室の訪問・ディスカッション
アメリカ（ボストン）	8月	9日	GTL Summer Intern for Systems Method Experience at MIT
アメリカ（シカゴ・ワシントンDC）	8月	10日	アメリカで仕事をすることの素晴らしさとチャレンジを、アメリカのハートランドであるシカゴと国際都市ワシントン訪問を通して多角的に探ろう
アメリカ（ニューヨーク）	2～3月	8日	コロンビア大学所属東大卒業生の教授、研究者、学生を訪問・ディスカッション
アメリカ（コネチカット）	8～9月	17日	ニューイングランド有機農場でのCommunity Supported Agriculture体験（米国）
アメリカ（ニュージャージー）	8～9月	16日	オーガニック農場でのSustainable agriculture体験（米国）
アメリカ（ニューヨーク）	9月	10日	世界の情報発信の中心地、ニューヨークの脈動を体感してみよう
東京（本郷キャンパス）	10月～翌年1月	4ヶ月	日本語教室でのボランティア
東京（JICA東京センター）	8～9月	5日	JICAの国内研修現場で国際協力を知る

※上記プログラムは2018年度のものです。2019年度は実施しないプログラム、上記に記載のないプログラムもありますので、必ず学内説明会、及びウェブサイトで最新情報を確認してください。
※体験活動プログラムは国際交流体験だけではなく、ボランティア、就労体験、農林水産業・地域体験、フィールドワーク、研究室体験など、様々な活動を含みます。上記表は国際交流体験のみの抜粋です。

①

②

③

④

①ニューヨーク　JETROの方々と　②サウジアラビアスタイルのお茶会
③シンガポール　訪問先にて　④アメリカ　有機農場の皆さんと

体験活動プログラム参加者の声

スリランカに約1週間滞在し、SDGsをテーマにしたスタディプログラムを体験しました。貧困・農業・インフラ整備などの様々な課題について、現場でのフィールドワーク、現地の研究者や学生との意見交換、国連機関への取材などを通して学びました。特に、農村への訪問では、干ばつで稲作ができない苦境に直面しながらも、工芸品の生産などで生計を立てていた姿が印象に残りました。また、様々な学部から集まった参加学生同士で話し合い、学びを深めることもできました。持続可能な開発について分野横断的に学んだ、貴重な体験になりました。

スリランカで
SDGsフィールドワーク体験
農学部4年
鬼頭 健介さん

②東大生海外体験プロジェクト（海外企業体験活動）

「海外企業体験活動」は、経済界などで活躍する卒業生が、「留学する環境に恵まれた一部の学生だけでなく、より多くの学生に、積極的に海外体験をしてほしい」という理念により、自発的に寄附募集活動を進めている「東大生海外体験プロジェクト」の支援を受けた活動の1つです。
学部前期・後期課程の学生を対象とし、海外のオフィスや、海外で活躍する日本人の業務を実際に間近で見ることで、人生のグローバルキャリア形成を考えるきっかけとなるプログラムを実施しています。
活動場所はアメリカ、ヨーロッパ。世界各国にオフィスを構える日系企業で、多様な業務（マーケティング、システムデザインマネジメント、法務等）の体験を通して自身の専門知識やスキルを試す機会もあります。
この夏、海外の企業に飛び込んで視野を広げてみませんか。
URL: https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h001.html

今年度実施するプログラムの
詳細については
海外企業体験活動の
ウェブサイトをご参照ください

●海外企業体験プログラム一覧（2018年度版）
GROHE GROUP（ドイツ）　8～9月（2週間）／Rakuten USA, Inc.（アメリカ）　8月（10日間）
●応募締切・活動実施時期
応募締切:5月中旬（4月中旬からウェブサイト上で募集開始）／活動時期:8～9月の1～2週間程度
●協力
株式会社LIXIL、楽天株式会社、東京大学基金「東大生海外体験プロジェクト」
●参加者への経済的支援
往復渡航費、現地宿泊費、現地移動費など一人あたり上限50万円　※航空券、宿泊施設は大学で指定します。
卒業生による寄附募集活動「東大生海外体験プロジェクト」による寄附金を原資に、活動に関する経済的な支援が行われます。

海外企業体験活動参加者の声

GROHE GROUP（ドイツ）

医学部3年　金田 百惠さん

ドイツにあるGROHE GROUP本社（LIXILグループ）の人事部にて2週間インターンシップをさせていただきました。人事部の人材育成チームに配属され、社内向けE-Trainingの評価・作成、会議への参加等の業務にあたりました。また、広報やマーケティング、サプライチェーンなど他部署にも密着させていただき、社員の方々との交流を通して職種や多様な考え方に対する理解を深めました。自分の意見や考えを求められる場面も多く、良い刺激を受けながら、グローバルな視点や海外での働き方について学び、挑戦・成長し続けることのできた充実したプログラムでした。

Rakuten USA, Inc.（アメリカ）
（Project1: 米国企業法務の体験）

法学部3年　水野 挙徳さん

法務部の方から、M&A、企業訴訟、コンプライアンス等についてインハウス法務の視点からレクチャーを受け、得た知見が実務でいかに応用されているかを、Rakuten USAが関わった事案の書面を分析し、各分野の担当の方とセッションを持つこと等を通じて具体的に理解しました。学部生の段階でビジネスの本場において、とりわけインハウス法務の先端を体験できる機会は非常に貴重でした。法律家の多様な可能性、急成長する企業におけるビジネスの思考様式、カリフォルニアの企業文化など様々な見識が一挙に得られた事で私の将来の選択の幅が広がりました。

Rakuten USA, Inc.（アメリカ）
（Project2: コーポレートITチーム、研究開発部門の業務サポート）

工学部3年　橋本 豪さん

10日間のRakuten USAでの企業体験は、視野を世界に拡げることができた貴重な経験でした。社内でのコミュニケーションを円滑にするテクノロジーや、国際ビジネスの場で行われているITチームのプロジェクトマネジメントについて学ばせていただき、一日一日がチャレンジングでエキサイティングな体験の数々でした。また、Rakuten USAで活躍されている多くの社員の方々ともお話しする機会に恵まれ、今の自分に必要なことは何かということについて身をもって感じ、学びました。将来、分野を問わず海外での活躍を希望する皆さん、更なるチャレンジを求めて是非このプログラムに応募してみてください。

【新規プログラム】新たなグローバル・インターンシップ　2019年夏季休業から実施

東京大学とダイキン工業株式会社との「産学協創協定」（2018年12月）に基づき、ダイキン工業株式会社の世界各地の拠点におけるグローバル・インターンシップを2019年夏季休業から開始します。
●応募・募集人員等
出願開始は、2019年4月。募集人員は、数十名を予定しています。
※プログラムの詳細は、2019年4月に東京大学ホームページ等で周知します。

4）各学部・研究科の取り組み

①学部・研究科間交換留学　協定校一覧

各学部・研究科が独自に行っている「学部・研究科間交換留学」の協定校一覧です。
プログラムへの応募方法、最新情報等は各学部・研究科の担当窓口で確認しましょう。

※（M）は修士のみ、（D）は博士のみ

国・地域	協定校	対象
法学政治学研究科・法学部		
中国	北京大学法学院	院
中国	北京大学国際関係学院	学部/院
韓国	ソウル大学校法科大学院	院
医学系研究科・医学部		
台湾	国立台湾大学医学部	学部
台湾	台北医学大学医学部	学部
シンガポール	シンガポール国立大学医学部	学部
アメリカ	ジョンズホプキンス大学医学部	学部/院
アメリカ	ペンシルバニア大学医学部	学部/院
アメリカ	ミシガン大学医学部	学部/院
アメリカ	シカゴ大学医学部	学部/院
アメリカ	ハワイ大学医学部	学部
ドイツ	ミュンヘン・ルートヴィヒ・マクシミリアン大学医学部	学部
スウェーデン	イエテボリ大学	学部/院
工学系研究科・工学部		
中国	北京航空航天大学電子情報工程学院航空科学与工程学院　※新領域と担当	学部/院
中国	大連理工大学	学部/院
中国	同済大学院　※新領域と担当	学部/院
中国	北京交通大学	学部/院
中国	福州大学化学学院	学部/院
香港	香港理工大学建設・環境学部	学部/院
インド	インド工科大学マドラス校　※情報理工と担当	学部/院
インド	インド工科大学ハイデラバード校　※情報理工と担当	学部/院
インド	インド工科大学カラグプール校　※情報理工と担当	学部/院
インド	インド工科大学カンプール校　※情報理工と担当	学部/院
インド	インド工科大学デリー校　※情報理工と担当	学部/院
インド	インド工科大学ボンベイ校　※情報理工と担当	院
インド	インド経営大学院バンガロール校　※情報理工と担当	院
インドネシア	インドネシア大学公衆衛生学部　※対象専攻・学科限定	学部/院
インドネシア	バンドン工科大学　※対象専攻・学科限定	学部/院
韓国	ソウル大学校工科大学	学部/院
シンガポール・中国	シンガポール国立大学設計・環境学部 同済大学　建築・都市計画学院 清華大学　建築学院 [AMU]　※新領域と担当	院（M）
タイ	アジア工科大学院	院
タイ	チュラロンコン大学工学部　※対象専攻・学科限定	学部/院
タイ	タマサート大学国際工学部（SIIT）	学部/院
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校理科大学	学部/院
トルコ	中東工科大学工学部	学部/院
トルコ	イスタンブル工科大学理工学部	学部/院
アラブ首長国連邦	マスダール科学技術大学	学部/院
アメリカ	マサチューセッツ工科大学　※対象学科限定	学部

国・地域	協定校	対象
アメリカ	カリフォルニア大学（全校）	学部/院
オーストラリア	南オーストラリア大学情報科学技術工学環境学部	院
オーストラリア	ロイヤルメルボルン工科大学	学部/院
オーストラリア	クイーンズランド工科大学理工学部	学部/院
ニュージーランド	カンタベリー大学工学部	学部/院
オーストリア	ウィーン工科大学	院
オーストリア	グラーツ工科大学	学部/院
デンマーク	デンマーク工科大学	学部/院
フィンランド	アールト大学（旧:ヘルシンキ工科大学）	学部/院
フランス	ソルボンヌ大学（旧:ピエール・エ・マリー・キューリー大学（パリ第6大学））工学部	学部/院
フランス	セントラルスープレック（旧:エコール・セントラル・パリ）	学部/院
フランス	エコールアトランティック（旧:エコール・デ・ミン・ド・ナント）	学部/院
フランス	フランス国立応用科学院リヨン校（INSA Lyon）	学部/院
フランス	エコール・ミン・パリ	学部/院
フランス	エコール・デ・ポン・パリテク	学部/院
フランス	航空宇宙高等学院（ISAE）	学部/院
フランス	国立民間航空大学校（ENAC）	学部/院
フランス	エコール・セントラル・リヨン	学部/院
フランス	トロワ工科大学	学部/院
フランス	パリ・サクレー大学	学部/院
ドイツ	シュツットガルト大学	学部/院
ドイツ	カールスルーエ大学	学部/院
ドイツ	ミュンヘン工科大学（TUM）	学部/院
ドイツ	ダルムシュタット工科大学	学部/院
ドイツ	フリードリヒ・アレクサンダー大学エアランゲン・ニュルンベルグ工学部	学部/院
ドイツ	アーヘン工科大学数学、コンピューターサイエンス及び自然科学部・建築学部・土木学部・機械工学部・資源及びマテリアル工学部・電気及び情報学部　※理学系と担当	学部/院
ドイツ	ウルム大学　※理学系、情報理工と担当	学部/院
ドイツ	ワイマール・バウハウス大学土木工学部	院（M）
イタリア	トリノ工科大学　※情報理工と担当	学部/院
イタリア	ミラノ工科大学	学部/院
イタリア	聖アンナ大学院ロボティックス研究所 [GSDM]	学部/院
オランダ	デルフト工科大学機械・海洋・マテリアル工学部	学部/院
オランダ	トエンテ大学	学部/院
ノルウェー	ノルウェー工科自然科学大学	学部/院
ロシア	サンクトペテルブルグ国立大学マネージメントスクール	学部/院
スペイン	マドリッド工科大学建築学部	学部/院
スペイン	バレンシア工科大学	学部/院
スウェーデン	チャルマーズ工科大学	学部/院
スウェーデン	ルレオー工科大学	院（M）
スウェーデン	リンシェピン大学理工学部　※情報理工と担当	学部/院
スウェーデン	スウェーデン王立工科大学 [GME]	学部/院

国・地域	協定校	対象
スイス	スイス連邦工科大学ロ-ザンヌ（EPFL）	学部/院
EU	ミュンヘン工科大学、パリ・ラヴィレット建築大学、リスボン大学、ルーバン大学、ソフィア建築・土木・測地学大学[AUSMIP]　※新領域と担当	学部/院（M）
人文社会系研究科・文学部		
中国	山東大学儒学高等研究院・韓国研究中心	学部/院
中国	北京大学歴史学系　※総合文化と担当	院
香港	香港中文大学文学院	学部/院
インド	デリー大学	院
韓国	ソウル大学校人文大学	院
韓国	釜山大学校人文大学	院
イラン	テヘラン大学	院
フランス	エコール・ノルマル・スューペリュール	院
フランス	エコール・ノルマル・スューペリュール（リヨン校）	院
フランス	パリ第7・ディドロ大学　※総合文化、数理科学と担当	学部/院
フランス	パリ第8大学　※総合文化と担当	学部/院
ドイツ	ベルリン自由大学（歴史文化学部、他） ※総合文化と担当	学部/院
イタリア	ピサ高等師範学校	院
英国	セインズベリー日本藝術研究所	学部
理学系研究科・理学部		
韓国	ソウル大学校自然科学大学	院
チリ	マガジャネス大学	学部/院
アメリカ	カリフォルニア大学	学部
チェコ	南ボヘミア大学水産・水系保護研究院	学部/院
ドイツ	アーヘン工科大学数学、コンピューターサイエンス及び自然科学部・建築学部・土木学部・機械工学部・資源及びマテリアル工学部・電気及び情報学部　※工学系と担当	学部/院
ドイツ	ウルム大学　※工学系、情報理工と担当	学部/院
ドイツ	ハイデルベルク大学バイオサイエンス学部／ハイデルベルクバイオサイエンス国際大学院	学部/院
ロシア	サンクトペテルブルグ国立大学	学部/院
ロシア	ロモノーソフ記念モスクワ国立大学	学部/院
スウェーデン	ルレオー工科大学 Department of Computer Science, Electrical and Space Engineering	学部/院
農学生命科学研究科・農学部		
台湾	国立台湾海洋大学	学部/院
台湾	国立中興大学獣医学院	学部/院
台湾	台北医学大学公共衛生栄養学部	学部/院
台湾	国立屏東大学獣医学院	学部/院
台湾	台湾大学生物資源農学院	学部/院
中国	四川農業大学	学部/院
中国	中国農業大学	学部/院
中国	東北林業大学	院
中国	南京農業大学	学部/院
中国	南京林業大学	院
中国	北京林業大学	学部/院
中国	西南大学	学部/院
中国	中国科学院大学資源環境学院	学部/院
中国	東北師範大学地理科学学院	学部/院
中国	海南大学熱帯農林学院	学部/院
中国	浙江農林大学	学部/院
中国	浙江工業大学生物工程学院	学部/院
中国	福建農林大学	学部/院
中国	河南科技大学	学部/院
インド	タミルナードゥ農業大学	学部/院

国・地域	協定校	対象
インドネシア	ボゴール農科大学	学部/院
インドネシア	ムラワルマン大学	学部/院
インドネシア	ランプン大学農学部	学部/院
韓国	ソウル大学校農業生命科学大学	学部/院
韓国	ソウル大学校獣医学部	学部/院
韓国	釜慶大学校水産科学大学	学部/院
韓国	釜慶大学校環境海洋大学	学部/院
韓国	建国大学校獣医学部	学部/院
韓国	江原大学校山林環境科学学院	学部/院
マレーシア	マレーシア・サバ大学	学部/院
モンゴル	モンゴル生命科学大学（旧:モンゴル農業大学）	学部/院
モンゴル	モンゴル国立大学	学部/院
ミャンマー	イエジン農業大学	学部/院
フィリピン	セントラル・ルソン州立大学	学部/院
スリランカ	ルフナ大学	学部/院
タイ	カセサート大学獣医学部・農学部・林学部	学部/院
タイ	コンケン大学農学部	学部/院
タイ	チェンマイ大学	学部/院
タイ	チュラロンコン大学	学部/院
ベトナム	ベトナム国立農業大学	学部/院
ベトナム	カントー大学	学部/院
アルゼンチン	ラ・プラタ大学	学部/院
アメリカ	ミネソタ大学バイオテクノロジー研究所	学部/院
フィンランド	アールト大学（旧:ヘルシンキ工科大学）	院
フランス	アグロパリテック（旧:パリーグリニョン国立農学院）	院
フランス	フランス原子力・代替エネルギー庁ライフサイエンス局	院
ドイツ	カールスルーエ工科大学	学部/院
ポーランド	クラクフ農科大学	学部/院
スウェーデン	スウェーデン農科大学	学部/院
英国	エジンバラ大学獣医校	学部/院
経済学研究科・経済学部		
フランス	HEC経営学院（HEC Paris）	学部/院
ドイツ	デュースブルク・エッセン大学	院
ドイツ	フランクフルト大学	学部/院
スウェーデン	ストックホルムスクール・オブ・エコノミクス（SSE）	学部/院
英国	ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス（LSE）	院（D）
総合文化研究科・教養学部		
台湾	国立政治大学歴史学系	院
台湾	国立政治大学台湾史研究科	院
台湾	国立交通大学社会文化研究所	院
中国	華東師範大学思勉人文高等研究院	院
中国	中山大学国際関係学院	院
中国	北京大学歴史学系　※人文社会系と担当	院
中国	北京大学元培学院（PKU-UTokyoキャンパスアジアプロジェクト）	学部
韓国	ソウル大学校自由専攻学部（SNU-UTokyoキャンパスアジアプロジェクト）	学部
韓国	韓国外国語大学校東洋語大学・日本語大学	学部/院
シンガポール	シンガポール国立大学理学部・人文社会科学部	学部
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校附属人文社会科学大学	学部/院
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校附属日越大学	院
アメリカ	ニューヨーク大学大学院総合文化研究科	院
カザフスタン	アルファラビカザフ国立大学東洋学部	学部/院

次ページへ続く

国・地域	協定校	対象
フランス	パリ第7・ディドロ大学　※人文社会系、数理科学と担当	学部/院
フランス	パリ第8大学　※人文社会系と担当	学部/院
ドイツ	ベルリン・フンボルト大学	学部/院
ドイツ	マルティン・ルター・ハレ・ヴィッテンベルク大学第一哲学部	学部/院
ドイツ	ベルリン自由大学（歴史文化学部、他） ※人文社会系と担当	学部/院
ドイツ	ユストゥス・リービッヒ大学ギーセン社会科学・文化学研究科、メディア論研究センター	学部/院
ドイツ	ハンリッヒ・ハイネ大学デュッセルドルフ人文学部	学部/院
ドイツ	トリーア大学第二学部、第三学部	学部/院
イタリア	トレント大学統合生物学センター	学部/院
ロシア	ロシア国立人文大学	学部/院
スペイン	セビリア大学哲学部	学部/院
教育学研究科・教育学部		
スウェーデン	ストックホルム大学教育学部	学部/院
薬学系研究科・薬学部		
中国	瀋陽薬科大学	院
アメリカ	テキサス大学M.D.アンダーソンがんセンター	院
ドイツ	ボン大学リサーチトレーニンググループ1873	院
スウェーデン	イエテボリ大学S.A.アカデミー	院
数理科学研究科		
フランス	エコール・ノルマル・スューペリュールリヨン数学科	院
フランス	パリ第7・ディドロ大学　※人文社会系、総合文化と担当	院
ロシア	国立研究大学高等経済学院（HSE）	院
新領域創成科学研究科		
中国	同済大学院　※工学系と担当	院
中国	北京航空航天大学電子情報工程学院航空科学与工程学院　※工学系と担当	院
韓国	韓国科学技術院（KAIST）工学研究科	院
シンガポール・中国	シンガポール国立大学設計・環境学部 同済大学　建築・都市計画学院 清華大学　建築学院　※工学系と担当	院（M）
タイ	カセサート大学理学部	院
ブラジル	カンピナス大学機械工学部	院
ブラジル	ペルナンブコ連邦大学	院
ブラジル	リオデジャネイロ連邦大学	院
ブラジル	サンタカタリーナ連邦大学	院
コロンビア	エアフィト大学	院
アラブ首長国連邦	マスダール科学技術大学	院
ケニア	ナイロビ大学	院
オーストラリア	ロイヤルメルボルン工科大学	院
オーストリア	ウィーン工科大学	院
フランス	フランス国立応用科学院リヨン校（INSA Lyon）	院
フランス	エコール・ノルマル・スューペリュールリヨン	院
フランス	エコール・セントラル・ドゥ・ナント校	院
フランス	ジャンモネ大学	院
フランス	クロード・ベルナール・リヨン第一大学	院
フランス	フランス国立パリ建築大学ヴァル・ド・セーヌ校	院
フランス	フランス国立パリ建築大学ラビエット校	院
英国	インペリアルカレッジロンドン工学研究科化学工学専攻	院
EU	ミュンヘン工科大学、パリ・ラヴィレット建築大学、リスボン大学、ルーバン大学、ソフィア建築・土木・測地学大学[AUSMIP]　※工学系と担当	院（M）
その他	国連大学サステイナビリティ高等研究所（UNU-IAS）	院

国・地域	協定校	対象
情報理工学系研究科		
インド	インド工科大学マドラス校　※工学系と担当	院
インド	インド工科大学ハイデラバード校　※工学系と担当	院
インド	インド工科大学カラグプール校　※工学系と担当	院
インド	インド工科大学カンプール校　※工学系と担当	院
インド	インド工科大学デリー校　※工学系と担当	院
インド	インド工科大学ボンベイ校　※工学系と担当	院
インド	インド経営大学院バンガロール校　※工学系と担当	院
タイ	チュラロンコン大学工学部、理学部	院
オーストリア	ウィーン工科大学（VUT）	院
デンマーク	デンマーク工科大学（DTU）	院
フィンランド	アールト大学（旧:ヘルシンキ工科大学）	院
フランス	エコール・スューペリュール EA（ESIEA）	院
フランス	セントラルスープレック（旧:エコール・セントラル・パリ）	院
フランス	IMT Atlantique（旧:エコール・デ・ミン・ド・ナント）	院
フランス	エコール・ノルマル・スューペリュール・カシャン（ENSC:カシャン高等師範学校）	院
フランス	フランス国立応用科学院リヨン校（INSA Lyon）	院
ドイツ	ミュンヘン工科大学（TUM）	院
ドイツ	ダルムシュタット工科大学（TUD）	院
ドイツ	ウルム大学　※工学系、理学系と担当	院
イタリア	トリノ工科大学　※工学系と担当	院
ノルウェー	ノルウェー工科自然科学大学（NTNU）	院
スウェーデン	リンシェピン大学理工学部　※工学系と担当	院
スイス	チューリッヒ大学自然科学部・経済学部（UZH）	院
情報学環・学際情報学府		
韓国	ソウル大学校社会科学大学言論情報学科	院
公共政策学連携研究部・教育部		
中国	北京大学　国際関係学院（PKU-SIS）	院
韓国	ソウル大学校　国際大学院（SNU-GSIS）	院
シンガポール	シンガポール国立大学リー・クァンユー公共政策大学院（LKY-SPP）	院
ブラジル	ジェトゥリオヴァルガスビジネススクール（FGV）	院
アメリカ	コロンビア大学国際公共政策大学院（SIPA）	院
アメリカ	カリフォルニア大学サンディエゴ校（UCSD）グローバル政策&ストラテジー研究大学院（GPS）	院
アメリカ	カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）ラスキン公共政策大学院公共政策学科	院
オーストラリア	オーストラリア国立大学（ANU）クロフォード公共政策大学院	院
デンマーク	コペンハーゲン大学社会科学研究科	院（D）
フランス	パリ政治学院（Sciences Po.）	院
フランス	HEC経営学院（HEC Paris）	院
ドイツ	ヘルティー・スクール・オブ・ガバナンス（HSoG）	院
ドイツ	ハイデルベルク大学 The Graduate Programme for Transcultural Studies（GPTS）	院
英国	ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス（LSE）	院
英国	ロンドン大学キングスカレッジ社会科学公共政策研究科	院（D）
その他	国連大学サステイナビリティ高等研究所（UNU-IAS）	院

※2019年2月1日現在、交換留学を実施するため、東京大学が学生交流覚書を締結している協定校を掲載しています。ただし、覚書の更新や取扱いの検討等により調整中につき掲載されていない協定校があることや掲載されていても当該年度に交換留学を実施していない場合もあるため注意してください。
※担当学部・研究科ごとに取扱いが異なるため、詳細は担当学部・研究科に確認してください。

②各学部・研究科によるプログラム

海外武者修行（工学系研究科・工学部）

工学系研究科・工学部では、学生が海外の大学・研究機関を訪問するための渡航費支援の取り組みとして、「海外武者修行」を実施しています。参加学生は、自分自身で海外の著名な研究室への訪問をアレンジし、自身の研究成果について発表を行います。各分野の一流の専門家からレビューを受けることにより、当該分野の国際コミュニティにおける自身の研究の立ち位置を確認し、研究へのモチベーションを高めることが期待されています。これまでオックスフォード大学やマサチューセッツ工科大学をはじめとする世界各国の大学・研究機関の研究室への派遣実績があり、参加学生にとっては、海外の研究現場を肌で感じることで、今後の研究やキャリアについても考えを深めることができる貴重な機会となっています。海外武者修行へチャレンジしたい方は、工学系研究科・工学部学生用情報ポータルサイトの通知を参照してください。

対象学生:工学系研究科・工学部の学生（詳細は募集要項を参照）
実施期間:11月中旬～3月中旬のうち最大4週間（応募者自身がアレンジ）
応募方法:応募書類提出、書類審査により選考
お問い合わせ先:工学系・情報理工学系等事務部国際推進課国際交流チーム
outbound.t@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

理学部学生国際派遣プログラム（SVAP）（理学部）

本プログラムでは、選抜された理学部学生を研究実習（インターンシップ）や短期講座受講（サマースクール等）のため海外の大学や研究機関に派遣しています。学生は興味のある分野の研究を行っている海外の教員や研究者に自力でコンタクトを取り、インターンシップの受入許可を得るか、参加したい海外プログラムを見つけ応募等の必要な手続きを行った上でSVAPに応募します。書類審査と英語による面接を経て採択されたSVAP派遣生は、自分で渡航計画を立て、理学部の経済支援のもと海外での研究や講座受講を体験します。これまでの派遣生は、アメリカやヨーロッパ、アジアの様々な大学や研究機関へ渡航し、充実した研究や学修の体験を得て帰国しました。その様子の一部は以下で読むことができます:
https://www.facebook.com/UTokyo.SVAP/
ハードルの高いプログラムですが、その分、プログラムへの参加を経て大きく成長することができます。また、自分で行き先も期間も決められる自由度の高さも好評です。

対象学生:理学部学生ならびに理学部に内定している推薦入試入学者
実施期間:5月～3月の間の2週間～3ヶ月間（応募者自身が決定）
応募方法:応募書類提出
（派遣の前年度の1月下旬または2月上旬頃締切）
URL:https://www.s.u-tokyo.ac.jp/ja/offices/ilo/svap/application.html
お問い合わせ先:理学部国際化推進室
ilo.s@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

詳細はこちら

国際交流促進プログラム（農学生命科学研究科）

農学生命科学研究科では、本研究科に在学する大学院学生を対象として、より深く、かつ幅広い研究活動を目指して、留学することにより、より深く広い経験と知識を身につけることを目的とし、海外の大学、研究所・研究機関等への留学を支援します。このプログラムにより、多様な専門分野の研究に若い時期に参画し、海外における最先端の研究手法や当該分野での人脈の獲得、国際的な人的ネットワークの形成を得られることが期待され、また、併せて英語でのコミュニケーション能力の向上も期待されます。2019年4月に「2018年度国際交流促進プログラム報告会」を開催いたしますので、興味のある方は、是非ご参加ください。本プログラムや報告会の詳細については、農学生命科学研究科・農学部のウェブサイトを参照してください。

対象学生:農学生命科学研究科に在学する大学院学生
実施期間:2019年7月～2020年2月末を予定
応募方法:書類審査
URL:https://www.a.u-tokyo.ac.jp/
お問い合わせ先:農学系教務課学生支援チーム（学生生活担当）

詳細はこちら

東京大学リベラルアーツ・プログラム（総合文化研究科・教養学部）

リベラルアーツ・プログラム(LAP)は、教養教育を海外へ発信し、学生交流を通じてグローバルな視野と総合的判断力を備えた人材の育成を目指す教育交流プログラムです。中国の南京大学と連携し、（1）毎年3月に学部1年生から院生までの混合チームを派遣してフィールドワークとグループ討論を行います（1週間派遣）。（2）毎年8月に南京大学で中国語の特訓サマースクールを実施し、中国語履修の学部2年生を派遣します（3週間派遣）。（3）毎年11月に南京大学の学生を駒場に招き、東京大学一週間体験プログラムを実施。東大生とともにフィールドワークとグループ討論を行います(1週間)。さらに、（4）学部3年生以上を対象に、中国語上級サマースクール「深思北京」を、中国人民大学と連携して、秋に開講しています（1週間派遣）。詳しい紹介と参加者の体験談はLAPのウェブサイトご覧ください。意欲的な学生の参加を期待します。

対象学生:主に学部生が対象だが院生も参加可
専攻・学年の別は問わない
実施期間:上記参照
応募方法:レポート審査もしくは面接
URL:http://www.lap.c.u-tokyo.ac.jp/
お問い合わせ先:総合文化研究科・教養学部附属教養教育高度化機構国際連携部門

詳細はこちら

ユネスコ・バンコク事務所インターンシッププログラム（教育学研究科）

教育学研究科と国連教育科学文化機関（ユネスコ）バンコク事務所・アジア太平洋地域教育局（以下、ユネスコ・バンコク事務所）の学術交流協定に基づき、教育学研究科に所属する学生をユネスコ・バンコク事務所に数ヶ月間インターンとして派遣するプログラムです。学生はインターンとして、国際的な教育に関する諸領域（政策、実践、調査研究等）においてユネスコが有する豊富な知見に触れ、理解を深め、ユネスコ・バンコク事務所が展開する事業の業務補助を行います。学生の国際感覚を鍛える実践的なプログラムとなっており、教育や教育分野における自らのキャリアについて、国際的な視点から考える機会となることが見込まれます。具体的な時期・期間・受入部署は、教育学研究科から学生の推薦を受けてユネスコ・バンコク事務所が決定します。本プログラムの詳細は、教育学研究科学生支援チームのウェブサイト（学内限定）を参照してください。

対象学生：教育学研究科に在学する大学院学生
実施期間：7月以降に開始し、3ヶ月～6ヶ月間（受入部署との協議により決定）
応募方法：書類・面接審査により選考
お問い合わせ先：教育学研究科国際交流室・学生支援チーム

海外大学院とのダブル・ディグリー・プログラム（公共政策学教育部）

公共政策学教育部（GraSPP）は、東京大学の大学院の中で最も留学生比率の高い大学院であり、学生数の約半分を留学生が占めています。またGraSPPには、充実した留学プログラムがあり、現在、16大学と交換留学やダブル・ディグリー・プログラム（DD）を行っています。ダブル・ディグリー・プログラムとは、東京大学で1年、海外の協定校で1年学ぶことによって最短2年で二つの大学からそれぞれ学位を取得することができるプログラムです。DDが出来る協定校は、コロンビア大学（ニューヨーク）、パリ政治学院（パリ）、シンガポール国立大学（シンガポール）、ヘルティ・スクール・オブ・ガバナンス（ベルリン）、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス（ロンドン）、ソウル大学校（ソウル）、北京大学（北京）、オーストラリア国立大学（キャンベラ）の8校です。詳細については公共政策大学院のウェブサイトを参照してください。

対象学生：公共政策学教育部の大学院学生
実施期間：交換留学は1クオーターから1年、ダブル・ディグリーは1年
応募方法：プログラムの募集要項に従って、期日までに指定の書類を提出する
URL：http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/international-exchange/
お問い合わせ先：公共政策学教育部国際交流担当
exchange@pp.u-tokyo.ac.jp,
campusasia@pp.u-tokyo.ac.jp

詳細はこちら

5）学内でできる国際体験

東京大学では100以上の国と地域出身の約4,000名の留学生が学んでいます。留学の準備や国際交流の機会として、キャンパス内での国際体験を活用しましょう。以下に一例を紹介します。

Amgen Scholars Program

Amgen Scholars Program は、主に医学・生命科学系分野を専攻する学部学生を対象に、世界24の大学・機関において実践的・専門的・集中的研究体験の場を提供する夏季インターンシップ・プログラムです。東京大学の学生は、東京大学・京都大学・シンガポール国立大学・清華大学で開催されるプログラムに応募することができます。いずれのプログラムでも、世界中から集まった意欲ある学生が参加し、英語でコミュニケーションを取りながら、積極的に研究活動に取り組んでいます。プログラムの最後にはシンガポール国立大学での4大学合同シンポジウムに参加します。東京大学プログラム参加者は全員本郷キャンパス近くの宿舎に滞在し、プログラム終了後もずっと続く交流を構築していきます。

https://www.u-tokyo.ac.jp/en/prospective-students/amgen_program.html

詳細はこちら

UTokyo Global Summer Program　開講コース

東京大学は2019年よりUTokyo Global Summer Programを開催します。IARU加盟校、戦略的パートナーシップ校、AUA加盟校の世界トップレベルの大学より学生を受け入れるエリートプログラムです。以下の開講予定のコースはすべて英語で授業が行われます。本学の学部3年生以上の学生は集中講義として受講可能です。（教養学部前期課程の学生は履修できません。）ディスカッションやグループプレゼンテーションなどを海外の学生と行うことにより、学内で留学同様の経験が積めます。また、留学の準備としても効果的です。

- Sustainable Urban Management（工学部）
- Nanoscience（工学部）
- Japan in Today's World（法学部）
- Internationalization of Higher Education in Asia（教育学部）

※開講時期・内容については授業カタログを参照し、参加を希望する場合は履修登録時に履修手続を行ってください。他学部聴講となる場合は、所属学部・研究科の規則により履修可能かどうか確認してください。

https://www.u-tokyo.ac.jp/en/prospective-students/iaru.html

詳細はこちら

国際化教育支援室による国際交流活動の例

グローバルキャンパス推進本部国際化教育支援室では、さまざまな国際交流活動を実施しています。

（1）本郷キャンパス

留学生との交流を目的として、留学生支援室ではFACE（Friendship And Cultural Exchange）プログラム、中国語茶話会、言語交換プログラムなどを実施しています。また、国際交流を目的としたキャンパス内の学生活動の情報提供等も行っています。詳細は以下の「留学生支援ウェブサイト」でご確認ください。

https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/inbound/ja/life-interact-ac.html

詳細はこちら

（2）駒場キャンパス

留学生とともに日本伝統芸能の鑑賞や文化体験をするイベントから、「ドッヂビー＆交流会」といったスポーツイベントまで、様々な国際交流の場を提供しています。また駒場Ⅱキャンパスでは、毎週火曜日に国際交流を目的としたInternational Gatheringを開催しています。詳細は以下の「グローバル駒場」ウェブサイトでご確認ください。

http://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp

詳細はこちら

（3）柏キャンパス

柏キャンパスで学ぶ留学生、外国人研究者およびその家族と1対1で交流するための「1対1交流プログラム」や「言語交換プログラム」を実施しています。その他にも、日本人構成員と外国人構成員が交流できる様々なイベントを定期的に行っています。また、大学院生及び教職員を対象に、平日に柏キャンパス内の教室を利用して英語講座を開講しています。プレゼンテーションやディスカッション、科学技術論文執筆、TOEFL・IELTS対策等、学内の教員や外部講師による様々な講座を実施しています。詳細は以下よりご確認ください。

https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/inbound/ja/kashiwa.html

詳細はこちら

UTokyo Global Summer Program / Japan in Today's World 授業風景

Global Studies Program

Global Studies Programは、教室での学びを通してアカデミックな国際交流の実践力を養うためのプログラムです。教養学部後期課程の学融合（学科横断型）プログラムの一つですが、本プログラムで提供されている科目は他学部の全ての学生に開かれており、科目受講が可能です。文化の多様性、多元化が進む現代において、他者や異文化に対して創造的に開かれた眼差しを獲得し、対話力を鍛えることの重要性はますます高まっています。このプログラムでは、文化的・社会的背景の異なる学生たちと共に学び、活動の場を共有することを通して、国際的な視野を身に着け、多言語、多文化の中で活躍できる人材の育成を目指します。「グローバル教養実践演習」では海外の学生とのディスカッション、グループワーク、近郊地域へのフィールドワークなどを通して共同演習を行います。また、交換留学生たちを交えてディスカッションの場を設けたり、卒業生や政府機関、外交関係で活躍されている方のお話を聴く企画を実施したりもしています。これらは他学部の学生のみならず1・2年生も歓迎ですので、ぜひ気軽に参加してください。このようにGlobal Studies Programは、特に留学を考えている学生には、キャンパスにいながらにしてプレ留学体験ができる場ともなっています。

http://www.c.u-tokyo.ac.jp/info/academics/fas/joint-program/gs/
https://www.facebook.com/GS-GSA-at-Komaba-1940026042975792/

Facebookにアクセス

グローバリゼーションオフィス（総合文化研究科・教養学部）

グローバリゼーションオフィスでは、駒場キャンパスで学ぶ皆さんが、国内外で様々な国際経験を積めるようサポートする活動を行っています。活動の大きな柱は、海外を知る、海外で学ぶ、国際交流の3つです。

世界の様々な国や地域について広く見識を深めたい学生には、大使館員や海外出身の教員が、各国事情を語るカジュアルな講演会やセミナーを開催しています。過去にはイタリア、スウェーデン、オーストラリア、アメリカ、フランス、ブラジル、トルコ、メキシコ、インドネシアなどの大使館員の方々が様々なテーマでレクチャーを行いました。

国際交流に興味がある学生には、留学生や日本人学生が参加できるフィールドトリップや体験型セミナーを開催しています。例年秋には、留学生と共に学ぶフィールドトリップを行っています。その他、グローバリゼーションオフィスと連携しながら交流活動や留学生支援を行う学生団体TGIFが、日本人学生や留学生が参加できる生協前での昼食会（毎週木曜日）や様々な交流イベントを企画・実施しています。

もっと積極的に、留学生をサポートしたいという学生には、GO Tutorという仕事もあります。チューターの任務は主に英語プログラムで学ぶPEAK1年生や交換留学生を学習面、生活面でサポートする事で、活動は主にグローバリゼーションオフィスのラウンジで行います。年2回、学期初めに新メンバーを募集しています。

海外留学に興味のある学生向けには、留学相談会、TOEFL/IELTS説明会、留学成果発表会などを開催しています。オフィスでは、留学関連資料を閲覧でき、教職員や学生留学アドバイザーが随時個別の留学相談にも応じています。また交換留学プログラムで海外派遣が内定した駒場在籍の学生には年に2回、留学前研修を実施しています。

短期に海外で学びたい学生には、国際研修プログラムを提供しています（p23参照）。国際研修とは、異なる言語・文化の環境に触れ、国際交流の現場を体験し、グローバルな視野を養うことを目標とした短期の海外研修プログラムです。これまでに、オーストラリア、ギリシャ、フランス、メキシコ、イタリア、ドイツ、トルクメニスタン、ハンガリー、マレーシア などで研修が行われました。

これらのイベント、プログラム、活動に興味を持った方は是非ウェブサイト、Facebookをチェックし、情報配信サイトに登録しましょう!

http://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp
https://www.facebook.com/GlobalKomaba

ウェブサイトにアクセス

ICYou（International Cafe for You）

ICYouは、工学系研究科日本語教室（JLCSE）が主催する多文化・多言語国際交流の場です。東京大学で学ぶ留学生と日本の学生が、専門や国を超えて出会える気軽な集まりです。学期中、毎週木曜日のお昼に開催しています。持ってきたランチを食べながら、リラックスした雰囲気で国際交流ができます（なお、これまでの会場だった工学部11号館の2階が2019年度に改修予定のため、会場、開催日は、変更の可能性があります。下記HPでご確認ください）。趣味の話題から突っ込んだ議論まで、英語でも日本語でも言語の縛りはありませんので、気軽におしゃべりを楽しんでください。また、楽しいイベントも随時開催しています。本郷キャンパスでちょっと身近な国際交流に参加してみませんか。

会場・スケジュール等の詳細:JLCSEホームページ
http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/

詳細はこちら

ICYouでの活動の風景

International Friday Lounge（IFL）

IFLは工学系研究科と本部が主催する国際交流の場です。毎週金曜日12:10～13:10に英語で楽しくランチをしています（これまで会場だった工学部11号館の2階が2019年度に改修工事で使えないため、開催場所は下記HPでご確認ください）。参加者は東京大学で学ぶ留学生、日本の学生や東京大学職員ですが、海外からのゲストが来ることもあります。年に数回、ハロウィンやクリスマスなどの楽しいイベントも開催しています。英語が話せるようになりたい方、友達を作りたい方、国際交流に興味のある方、新しい人に出会うチャンスです!登録は必要ありませんので、お気軽にご参加ください。

スケジュールや開催地などは以下でご確認ください。
https://www.facebook.com/iflseut/

詳細はこちら

スペシャル・イングリッシュ・レッスン（SEL）

「スペシャル・イングリッシュ・レッスン（SEL）」は、英会話に慣れたい、英語力を向上させたいという東大生・職員向けのプログラムです。日常会話、プレゼンテーション、ディスカッション、TOEFL対策等さまざまなコースがレベル別に提供され、比較的低価格で受講できます。外部英語学校から経験豊かなネイティブ・スピーカー（TOEFL講座は一部日本人講師）を招き、毎年春と秋に10週間ずつ本郷キャンパスで放課後に開講します。皆さんも週1-2回、集中して英語に取り組んでみませんか。

http://www.sel-ut.com

詳細はこちら

個人で留学、インターンシップ、ボランティア等に参加する

留学プログラムには、東京大学が募集するもの以外にも、海外の大学や民間の留学業者などが募集するプログラムもあります。また、留学プログラム以外にも、海外で行う活動としてインターンシップやボランティアなどが海外企業、大学、国際機関等で実施されています。これらの内容・時期・期間は多岐に渡るため、皆さんの希望に合うものもきっとあるでしょう。東京大学の協定校や政府機関が募集するものについては、Go Global ウェブサイトでも随時案内しているので、参考にしてください。奨学金が支給される機会もあるので、併せて情報を集めるようにしましょう。

個人応募を行う際の注意

手続きを全て自分で進めることになるため、十分な情報収集を行うことが必要です。
（参考）日本学生支援機構「留学斡旋業者の利用について」
http://ryugaku.jasso.go.jp/oversea_info/basic/agency
また応募前に、留学時に所属する学部・研究科の担当部署にて手続きなどをよく確認しておくことも重要です。
プログラムを実施する大学、機関等の指示に従うのはもちろん、東京大学の「海外渡航危機管理ガイドブック」の内容もよく理解しておくようにしましょう。（p45参照）

6）国際総合力認定制度（Go Global Gateway）

Go Global Gatewayとは

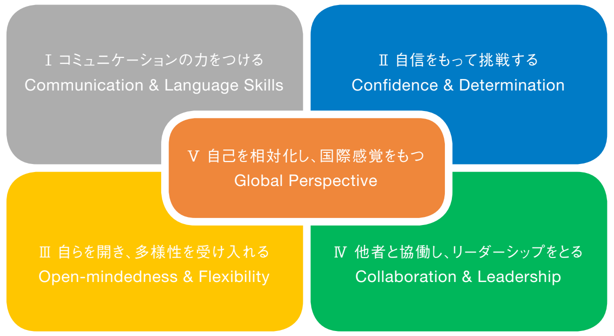
東京大学は、学生の皆さんに大学生活を通じて、世界の多様な人々と共に生き、共に働く力（国際総合力）を身につけてもらいたいと考えています。2018年4月から国際総合力認定制度（Go Global Gateway）を開始しました。これは、学生の皆さんが、入学後の早い時期から世界を意識し、国際総合力を身につけるためのものです。そのための学びや体験を自分で考え、実践することで、国際総合力の認定証を大学から得ることができます。将来の就職や進学にも役立つものです。

対象者

2018年度以降の前期課程入学者全員

国際総合力の5つの要素

「国際総合力」は、右図の5つの要素から構成されます。
在学中に5つの要素をバランス良く身につけて、広い視野をもって様々なフィールドで活躍することを期待しています。



ポイント！
- 語学検定試験（IELTS、TOEFLなど）の受験料が補助されます！
- グローバルキャンパス推進本部が主催する国際交流イベント・留学プログラムなどに参加できます！
- 自分だけのポートフォリオ（活動履歴）を作れます！

認定までの流れ

- Ⅰ Statement（目標設定）の提出
- Ⅱ アクティビティに取り組む
- Ⅲ ポートフォリオ（活動履歴）の作成
- Ⅳ 認定申請レポートの提出

国際総合力を身につけるために、在学中に何をするべきか、どのように国際総合力を身につけたいかの目標設定を行います。その後、在学中に下図に指定するアクティビティに取り組み、条件を達成すると、国際総合力の基礎的な力を身につけたものとして認定証が授与されます。
https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-gateway/ja/

詳しくはウェブサイトへ

アクティビティ

1	外国語学修	前期課程外国語科目(初修・既修)の必要単位数を取得　第三外国語科目の単位取得
2	授業・コース	母語以外で実施される授業科目の単位取得／MOOCsの修了／研究・学習プログラム／インターンシップなど
3	海外経験	留学（3か月未満／3か月以上）／フィールドワーク／インターンシップ／ボランティアなど
4	国際交流活動	母語以外で開催される講演会・イベント等への参加／本学における国際交流イベントの運営に携わるなど

Go Global Gateway独自のイベント等
- 留学経験者や留学生との懇談会
- IELTS受験対策講座
- 語学検定試験奨励金支給制度
- 短期海外留学プログラム

お問い合わせ先：国際総合力認定制度Go Global Gateway担当 go-gateway.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

Ⅱ
留学・国際交流関連情報　p35-49

1. 情報収集方法 …… p36-37
2. 留学にかかる費用と奨学金 …… p38-41
1）費用と奨学金例 …… p38-39
2）支援者及び先輩奨学生の声 …… p40-41
3. 留学における学籍・単位認定 …… p42-43
4. 語学能力検定試験 …… p44
5. 安全と危機管理 …… p45
6. 留学と就職活動 …… p46
7. 卒業後の大学院留学 …… p47
8. よくある質問 …… p48-49

1. 情報収集方法

有意義な留学・国際交流の成否はどれだけ情報収集を行ったかで左右されると言っても過言ではありません。以下のようなツールを活用して、主体的に情報を集めましょう。

各学部・研究科の情報

各学部・研究科独自の留学・国際交流プログラムについては、各学部・研究科のポータルサイトや掲示板、窓口等で情報が得られます。また、留学の際の東京大学での学務上の注意点（留学中の授業履修・単位・学籍など）も各学部・研究科によって異なるので、必ず申請前に担当部署へ確認するようにしましょう。
学部・研究科（教育部）の連絡先:
https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/contact-department.html

各学部・研究科の連絡先一覧にアクセス

東京大学全体・グローバルキャンパス推進本部のプログラムの情報

①Go Global ウェブサイト

留学プログラムだけではなく、奨学金や安全管理等について本ガイドブックよりさらに詳細な情報や最新情報が掲載されています。また、過去にグローバルキャンパス推進本部のプログラムに参加した学生の体験記も読むことができます。経験者の生の声を参考にしましょう。
Go Global ウェブサイト: https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/

Go Global ウェブサイトにアクセス

トップページの「NEWS」では、最新のプログラム募集情報、イベント情報などを確認できます。

②Go Global公式SNSアカウント

グローバルキャンパス推進本部からの直接の発信で、留学プログラムや奨学金関連の新着情報をお知らせします。以下のアカウントをフォローすれば、有益な情報をリアルタイムで得ることができます。

@todai.go.global　@todai_global　LINE@ @nzn2125l

SNSアカウントをフォロー

海外には強力な東大サポーターがたくさんいます

ここ十数年の間、東京大学卒業生のネットワーキングは急速に拡がっています。（東大校友会登録団体数304、うち海外同窓会54、海外在住卒業生約6,500名。）海外同窓会では帰国留学生を含む皆さんの先輩たちが、様々なサポートを提供しています。たとえば海外における体験活動や、サマー/ウインタープログラムの多くは海外同窓会の全面的な協力で実施されています。また、留学時のサポートや現地でのイベント参加など、様々なシーンで皆さんを支援しています。

https://www.u-tokyo.ac.jp/en/alumni/alumni_association.html
詳細は卒業生部門にお問い合わせください。
東京大学卒業生部門　e-mail: tft.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

海外同窓会一覧にアクセス

③Facebookグループ「Todai Go Global Network」

東京大学の在学生・教職員・卒業生が留学・国際交流に関する情報を交換できるFacebookの非公開グループです。参加にあたっては本学関係者であることの認証手続きが必要です。詳細はGoGlobal ウェブサイトを確認してください。
グループへの参加方法:
https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/contact-search-fb.html

グループに参加する

④留学・国際交流関連イベント

グローバルキャンパス推進本部では大規模な春の留学フェア、秋の留学説明会に加え、年に数回、小規模な留学プログラム・海外インターンシップ等の説明会を駒場キャンパス・本郷キャンパスにて開催しています。説明会は担当者やプログラム参加者の話を直接聞くことができるよい機会です。
また、海外大学や各国大使館などが主催する留学関連イベントも開催されているので目的に応じて積極的に参加してみましょう。説明会・イベントの情報は①Go Global ウェブサイトや②Go Global 公式SNSアカウントなどで紹介しています。
イベント情報・イベントレポート:
https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/top-events.html

イベント情報を確認する

2018年4月に開催した留学フェアの様子。様々なプログラムの説明を受けたり、ブース出展団体との個別相談、プログラム参加者との交流ができたりする、貴重な機会です。

⑤Go Globalセンター内 留学生・留学情報サポートデスク

Go Globalセンターでは、留学に関する書籍や資料などを閲覧できます。また留学生・留学情報サポートデスクで、海外留学に関する一般的な問い合わせ・質問に対応します。サポートデスクの開設時間等は、ウェブサイト上のカレンダーでご確認ください。

アドバイザーから一言
海外留学に興味がある、何から始めたらよいのか分からない、海外留学をしようか迷っている等、お気軽に話しにきてください。海外留学に関する情報提供・相談を行っています。

場所: 本郷キャンパス理学部1号館東棟1階Go Globalセンター内
留学生・留学情報サポートデスク:
https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/contact-icenter.html

開室時間を確認する

2. 留学にかかる費用と奨学金

1）費用と奨学金例

①費用一般について

長期留学の場合、国・地域や期間によりますが、一般的におよそ200～300万円以上の学費・生活費等がかかります。日本での学費・生活費と比較して検討してみましょう。全学交換留学や学部・研究科間交換留学などの場合には、原則として留学先に授業料を納める必要はなく、東京大学に東京大学の授業料を納めることになります。また、交換留学以外でも、東京大学を通じて申し込むプログラムでは、プログラムの実施機関から東京大学の学生向けの費用の割引・免除・参加補助などが受けられる場合があります。

約8ヶ月間の交換留学に参加した学生の費用例

- 渡航費（往復）　20万円
- 授業料（東京大学）　54万円
- 家賃・寮費　72万円
- 食費　10万円
- 保険加入料　10万円
- 娯楽費・交際費　16万円
- 雑費　15万円

費用合計 197万円 → 奨学金 64万円（月8万円） → 自己負担額 133万円

いかがでしょうか?この例以外にも、留学体験記（p11-13参照）やGo Global ウェブサイトに掲載されている、留学経験者の報告書にも留学に要した費用について記載があります。留学計画の参考にしてください。

②海外留学等奨学金について

● 奨学金の種類（期間・目的・応募方法）

まず、留学・海外活動の期間によって、概ね3ヶ月以上、3ヶ月未満で奨学金支給の対象が分かれています。さらに奨学金によっては交換留学、学位取得、その他（インターンシップ、ボランティア等）などその種類や目的を限定している場合があるので注意しましょう。
東京大学は「東京大学海外派遣奨学事業　海外留学等奨学金」（2019年2月1日現在）を設け、学生の留学・海外活動を支援しています。留学の期間により、短期（3ヶ月以上1年以内）または超短期（3ヶ月未満）の留学を対象として奨学金に応募が可能です。
また、東京大学独自の奨学金だけでなく、外部団体が公募する奨学金にも応募が可能です。外部団体の奨学金には、東京大学を通じて応募するもの（大学公募型）と、個人で外部団体へ直接応募するもの（個人応募型）があります。

● 奨学金の探し方

東京大学及び外部団体からの主な奨学金の公募情報は、Go Global ウェブサイト（p36参照）上で随時更新しています。期間・種類別に一覧で掲載していますので自分の留学・海外活動の内容と照らし合わせて探してみましょう。奨学金の応募締切は留学開始の半年ほど前に設定されていることがほとんどです。留学や海外活動を考え始めたら、早めに奨学金についても情報収集すると良いでしょう。また、「他奨学金との併給を認めない」とする奨学金もあるので、併願する際は十分注意してください。

● 東京大学を通じて応募するプログラムに参加する場合

交換留学や3ヶ月未満の留学プログラムなど、東京大学を通じて申し込むプログラムに参加する学生には、東京大学・その他支援団体等からの奨学金を支給する可能性があります。奨学金支給の有無や金額は、奨学金支給団体が定める条件（成績・家計基準等）や参加費用、使用可能な財源等を勘案の上、決定されます。
グローバルキャンパス推進本部が実施する全学交換留学、UC派遣プログラム、一部の全学短期派遣プログラムについては、要件を満たす学生は学内選考時に奨学金の申請ができるため、海外有力大学の各種プログラムへ東京大学からの奨学金を得て参加することが可能です。

● 学位取得のため留学する場合

例えば2年間にわたり修士の学位を取得するために留学する場合などは、日本学生支援機構（JASSO）海外留学支援制度（大学院学位取得型）ほか様々な外部団体が公募している奨学金があります。

③主な海外留学等奨学金一覧

（2019年2月1日現在）

大学公募型（東京大学による推薦や取りまとめが必要なもの）と個人応募型（個人で直接応募するもの）があります。

- 大学公募型では、奨学金申込書を所属学部・研究科の窓口に提出してください。提出書類や提出締切については各自所属学部・研究科窓口に確認してください。
- 個人応募型では、東京大学を通さずに個人で直接応募することとなります。

1）3ヶ月以上の留学が対象の奨学金

奨学金・プログラム名	支援期間	金額・対象	申請先
*1　東京大学　海外派遣奨学事業　短期（3ヶ月以上1年以内）海外留学等奨学金	3ヶ月～1年以内	月額6万円～10万円	所属学部・研究科
*2　官民協働海外留学支援制度～トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム～	1ヶ月～2年	月額12万円～16万円、留学準備金15～25万円、学費等	所属学部・研究科
（公財）KDDI財団日本人留学生助成プログラム	1年～2年	月額20万円	所属学部・研究科
（公財）経団連国際教育交流財団　産業リーダー人材育成奨学金奨学生	1年または2年	学費、生活費等として年間450万円を一律支給	所属学部・研究科
（公財）経団連国際教育交流財団　日本人大学院生奨学金	1年または2年	学費、生活費等として年間350万円を一律支給	所属学部・研究科
（公財）佐藤陽国際奨学財団　派遣留学奨学生	6ヶ月～1年	月額8万円、渡航費25万円、交換留学一時金10万円	所属学部・研究科
（公財）業務スーパージャパンドリーム財団　派遣留学奨学生	1年以内	月額15万円	所属学部・研究科
TOMODACHI 住友商事奨学金プログラム	1年	150万円	所属学部・研究科
百賢亞洲研究院 AFLSP日本人学生交換留学奨学金	1年	年額12,500米ドル（中国・香港・台湾・韓国の指定大学への留学）	所属学部・研究科
東京大学トヨタ高度人工知能人材育成のための海外留学奨学金	1年（場合により延長可）	月額22万円、授業料支援上限あり、人工知能分野での学修又は研究	所属学部・研究科
日揮・実吉奨学会海外留学奨学金	1セメスター以上1年以内	生活滞在費月額15万円、往復渡航費20万円、理工系（自然科学分野専攻）学生	所属学部・研究科
（公財）トラスト未来フォーラム　海外留学支援奨学金	6ヶ月～1年以内	月額10万円、法学部に在籍している学生	所属学部・研究科
*3　（独）日本学生支援機構　海外留学支援制度（大学院学位取得型）「大学とりまとめ応募」	修士2年以内 博士原則3年以内	月額8.9万円～14.8万円、授業料（年額上限250万円）	所属学部・研究科
*3　（公財）吉田育英会　日本人派遣留学プログラム	2年以内（審査の上、1年以内の延長あり）	学校納付金合計250万円以内、生活滞在費月額20万円、扶養補助（該当者のみ）、往復渡航費	所属学部・研究科
*3　（公財）竹中育英会　海外留学奨学生	修士2年以内 博士5年以内	大学納付金250万円以内、滞在費・渡航費等年額200万円以内	所属学部・研究科
（公財）平和中島財団　日本人留学生奨学生	2年以内	月額15万円～20万円、往復渡航費	直接応募
Friends of UTokyo, Inc. 米国伊藤財団－FUTI奨学金	6ヶ月以上	学費、滞在費等、実情に合わせて幅広く支給	直接応募
日米教育委員会フルブライト奨学生	詳細はウェブサイトで確認	大学院留学プログラム、大学院博士論文研究プログラム、研究員プログラム、ジャーナリストプログラム、フルブライト語学アシスタント（FLTA）プログラムの5種	直接応募
（公財）松下幸之助記念財団 松下幸之助国際スカラシップ	9ヶ月～2年	アジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国の大学・大学院及び政府研究機関に所属しての調査研究する者	直接応募
富士ゼロックス株式会社　小林節太郎記念基金　小林フェローシップ	詳細はウェブサイトで確認	人文・社会科学分野においてアジア・大洋州諸国・地域を研究テーマとする博士課程学生	直接応募
*3　船井情報科学振興財団　Funai Overseas Scholarship	原則2年間	情報科学、情報技術分野、経済、経営分野等で、Ph.D.取得を目指す学生	直接応募
*3　（公財）中島記念国際交流財団　日本人海外留学奨学生	修士課程:最長2年 博士課程:最長5年	月額20万円、往復渡航費、支度金20万円、授業料（留学当初の2年間、年間300万円以内）	直接応募
*3　（公財）伊藤国際教育交流財団　日本人奨学生	原則2年以内	生活費月額1,500～2,000米ドル、学費（年額300万円以内、往復旅費）	直接応募
（独）日本学生支援機構　第一種奨学金（海外協定派遣対象）（無利子貸与）	海外留学支援制度の支援期間と同じ期間	月額2万円～12.2万円、日本学生支援機構海外留学支援制度（協定派遣）採用者対象	本部奨学厚生課
（独）日本学生支援機構　第二種奨学金（短期留学）（有利子貸与）	3ヶ月～1年	月額3万円～15万円	本部奨学厚生課
*3　（独）日本学生支援機構　第一種奨学金（海外大学院学位取得型対象）（無利子貸与）	海外留学支援制度の支援期間と同じ期間	月額5万～12.2万円、日本学生支援機構海外留学支援制度（大学院学位取得型）採用者対象	本部奨学厚生課
*3　（独）日本学生支援機構　第二種奨学金（海外）（有利子貸与）	学位取得び標準修業年限以内	月額5万円～15万円	本部奨学厚生課

2）3ヶ月未満の留学が対象の奨学金

奨学金・プログラム名	支援期間	金額・対象	申請先
*1　東京大学　海外派遣奨学事業　超短期（3ヶ月未満）海外留学等奨学金	3ヶ月未満	月額6万円～10万円	所属学部・研究科
*2　官民協働海外留学支援制度～トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム～	1ヶ月～2年	月額12万円～16万円、留学準備金15～25万円、学費等	所属学部・研究科
Friends of UTokyo, Inc.米国の大学での夏季プログラムに参加する日本学生への奨学金	夏季の数週間	約3,000米ドル　アメリカの大学での夏季プログラム等	直接応募

注）●支援内容は変更になる場合があるので、最新情報はGo Global ウェブサイトを確認してください。●*1は東京大学独自の奨学金です。●*2は支援期間が1ヶ月～2年の奨学金のため、上記の3ヶ月以上と3ヶ月未満の両欄に掲載しています。●*3は学位取得目的に限定されている奨学金です。●諸外国の政府または政府関係団体による、その国/地域の大学などへ留学する日本人を対象にした奨学金制度については日本学生支援機構のウェブサイトを参照してください。●上記は、主な奨学金の例を記載しています。他にも特定の地域在住者対象の奨学金等もあるので、Go Global ウェブサイトを確認してください。

2）支援者及び先輩奨学生の声

Go Globalにチャレンジする東大生に社会が期待しています!

グローバルに活躍する人材の輩出を目指し、学生の留学・海外活動を推進する東京大学の取組には、卒業生をはじめとする社会から広く賛同を頂いています。そうした方々からの貴重なご寄附による奨学金も増えています。ここでは、支援者からのメッセージとともに、寄附奨学金プロジェクトの先輩奨学生からの声も併せて紹介します。

ゼンショー 東京大学・南京リベラルアーツ・学生交流プログラム

支援者からのメッセージ

ゼンショー 東京大学・南京リベラルアーツ・学生交流プログラムは、株式会社ゼンショーホールディングスからのご寄附にもとづき、日本と中国との将来を担う人材を育成するため、東京大学が中国の大学と行う学生交流の教育プログラムです。中国を代表する大学のひとつである南京大学と連携し、リベラルアーツ教育を通して、双方の学生がともに考え、ともに啓発する中で信頼関係を育み、豊かな人間性を備えた知中派・知日派となることを目指します。本プログラムは①東大×南大共同フィールドワークin 南京（3月）、②サマースクール in 南京（8月）、③東大×南大共同フィールドワーク in東京（11月）、④上級中国語研修（深思北京）、から構成されています。（p29参照）

日中の未来を拓く知中派・知日派を

小川 賢太郎氏
株式会社ゼンショーホールディングス
代表取締役会長 兼 社長

今から400年前、世界人口は5億人余、その60%はアジアに住んでいました。GDPの重心もアジアにありました。ところが1600年、世界最初の株式会社といわれるイギリス東インド会社（EIC）の設立と、1602年のオランダ東インド会社（VOC）の設立を境に、世界構造が急激に変化していきます。アジアの富のヨーロッパへの移動、本格的蓄積が始まり、これがヨーロッパにおけるその後の技術革新、産業革命へとつながり世界はヨーロッパによる支配の時代へと移行します。1585年3万人であった、アムステルダムの人口は1622年には3.5倍の10万5千人へと急増します。

今、世界の構造は400年ぶりの大転換期を迎えています。世界人口に占めるアジアの比率は再び60%を超え、GDPの重心も急速にアジアに移動しつつあります。

このような歴史の流れを見ると、アジア地域の安定的発展と世界全体の平和的発展のため、日中両国の果たすべき役割は大変大きいのではないでしょうか。そしてそれを具現化していくには、両国において幅広い知識をもとに物事を大局的・総合的に見て、判断し、行動する人財が不可欠であります。

南京大学におけるリベラルアーツのプログラムは東京大学の全面的な支援のもと、両国の歴史・文化・技術について深い理解を持った人財の育成を長期的視点で進めており、株式会社ゼンショーホールディングスも物心両面における全面的な支援をさせていただいております。

このプログラムが、日中両国について深い理解を持つ高度人財を継続的に育て、日本と中国、そしてアジアと世界の安定的発展に資することを期待しております。

参加学生からの声

植田 貫太
教養学部文科二類1年（当時）

「ゼンショー 東京大学・南京大学リベラルアーツ・学生交流プログラム」のうち、南京大学フィールドワーク研修に参加させていただきました。研修に参加してから三年近くが経過した今、当時の記録を振り返ると、稚拙な点が多く見受けられます。しかし多少ものを知り、異国も何度か訪れた今になっても、とてもよいスタイルで南京に入ることができたと感じています。観光客でも住人でもない、こう言って良いのなら、研究者として南京を歩くことができたのではないでしょうか。外国人としてだけでなく、現地の学生と連れ立っている時はもう少し身近なよそ者としても扱われ、現地の慣習に従っている間は比較的現地の人のように扱われ、家に招かれて長く深く関わった相手には抽象化しきれない独自の間柄の上での扱いを受けました。その上、宿舎での成果報告が自分の眼差しを疑う機会となり、心地良く一つの見方に固執せず、捉え方の揺れを味わい続けることができました。これだけ贅沢に異国を訪れることはなかなかできません。このような機会を用意してくださった株式会社ゼンショーホールディングスのご支援、そして東大教員の企画のもとでこのようなフィールドワークができたことに改めて感謝します。今後、その貴重さやありがたさを実感できるよう机の上でも、机から離れたところでも研鑽を積んでいこうと思います。

Go Global奨学基金「Fung Scholarships」

支援者からのメッセージ

東京大学グローバル・アドバイザリー・ボードのメンバーの一人であるVictor K. Fung氏が代表を務める香港のVictor and William Fung Foundationによる、学部学生の留学を支援することを目的にしたFung Scholarshipsが2015年度よりスタートしました。Fung氏は、世界の有力大学に対して学生の留学奨学金を支援しており、その奨学生達Fung Scholarsは既に5,500名に達しています。日本では東大生が初めてその仲間入りをしました。本奨学金プログラムでは、毎年20名程度の学部学生が、LLICプログラム（p18, p21参照）や全学交換留学（p8参照）に参加し、Fung Scholarsとして香港大学や本学との協定校へ派遣されます。

Dr. Victor K. Fung Chairman,
Victor and William Fung Foundation Limited Group Chairman, Fung Group

Fung Scholarship Programme:
With the increasing trend of globalisation, graduates with international outlook and experience of diverse cultures and environments would be the human capital critical to the continuous progress of a society. It was with this conviction, the Fung Scholarship Programme, set up by the Victor and William Fung Foundation Limited based in Hong Kong, was established to support university students to experience learning, communicating and networking outside their own culture. The recipients of the Fung Scholarships are known as Fung Scholars and they are chosen on the basis of their academic excellence and leadership potential.
Since the launch of the Fung Scholarship Programme in Bangladesh, Hong Kong, Japan, mainland China, Singapore, Turkey, UK and USA, there have been more than 5,500 scholarship recipients benefiting from the initiatives. To maintain and energise the network of Fung Scholars and Fung Fellows, the Foundation organises an annual Leadership Conference as well as other activities. City-based local chapters are established in Tokyo, Hong Kong, Singapore, China, New York, Boston and London to provide localised platforms for Fung Scholars in different cities on ideas exchange and give back to their communities. More information of the Fung Scholarships: www.FungScholars.org.
"We hope the University of Tokyo Fung Scholars will benefit greatly from this programme, and with wider exposure and experience, share with other Fung Scholars and the community at large the experiences and insights he/she gained from his/her study and/or work experience. We hope through this platform, our Fung Scholars are able to expand their network with other Fung Scholars worldwide, and that they will be able to contribute much more to the community."

Victor and William Fung Foundation Limited
https://www.fungfoundation.org/

詳細はこちら

東京でもFung Scholarsの集いを開催し、奨学生間の交流を深めています

東京大学では本ページで紹介したプロジェクトのほか、東京大学基金のもとに「Go Global奨学基金」を立ち上げ、卒業生や企業へ支援のお願いをしています。本基金の趣旨にご賛同頂いた多くの方々から多大なご寄附を頂き、東大生のGo Globalを支えて頂いています。

アメリカ留学の強い味方!"FUTI"（Friends of UTokyo, Inc.）の奨学金

FUTI（Friends of UTokyo, Inc.:東大友の会）は、東京大学の国際化を支援するために卒業生を中心に設立された、アメリカニューヨーク州登録のNPO団体です。プリンストン・プラズマ物理研究所の栄誉研究員である山田雅章教授（1966年工学部卒）が理事長を務め、卒業生や企業などの寄附をもとに奨学金給付や研究助成を行っています。FUTIの奨学金は、下記の2つの柱から成っています。

●FUTI奨学金（p39参照）:
アメリカへ夏季に留学する学生を対象とする奨学金です。2018年度には6名がこの奨学金を受給し、アメリカの大学でのサマーコースや語学研修コースに参加しました。奨学生は、「ハイレベルな授業を受けつつ、短期間のうちに多様なバックグラウンドを持つ人々に出会えることがこのプログラムの魅力の一つ」「留学先で出会った人とのつながりに心強さを感じ、今後さらに新たなことに挑戦する勇気をもらった」といった感想を寄せています。

●米国伊藤財団ーFUTI奨学金（p39参照）:
アメリカへの1セメスター（2クォーター）以上の中長期留学を奨学金給付の対象とした奨学金です。この奨学金は、伊藤雅俊氏（株式会社セブン&アイ・ホールディングス名誉会長）が前途有為な学生を支援するために設立した米国伊藤財団からの支援を受けて、2016年度にスタートしました。2018年度には12名がこの奨学金を受給し、将来を切り拓くための留学に挑戦しています。また、2018年度より、活発な課外活動の結果、学業・英語学習に時間制約があった方を歓迎する奨学金（IF育英奨学金）の給付も開始。2018年度は1名がこの奨学金を受給し、留学先で貴重な経験を積んでいます。
各奨学金の選考は、学業成績、エッセイ、推薦状などに基づいて行われますが、それに加えて、部活動、ボランティア活動など、大学の正課以外でもリーダーシップを発揮してきた東大生の応募を期待しています。（詳細はFUTIのホームページのFAQを参照） FUTIのネットワークは、奨学金の給付以外の面でも皆さんの留学生活のサポートになるでしょう。アメリカへの留学を考えている方は、ぜひ一度ホームページをご覧ください。

UC Berkeleyでのサマーセッションの様子
留学レポートはFUTIのホームページでご覧いただけます。

詳細はこちら

http://www.todaitomonokai.org/

3. 留学における学籍・単位認定

留学等のため海外へ渡航する場合には、所属する学部・研究科の担当部署に事前に相談してください。東京大学での学籍上の手続き（留学願、休学願、海外渡航届など）が必要な場合がほとんどです。学籍上の取扱いによって、授業料納入の有無や単位互換の可否が異なりますので注意してください。

※交換留学の場合は、「留学」又は「研究指導の委託」の手続きが必要です。
※留学先大学で取得した単位の本学における認定については、事前に留学時の所属学部・研究科の担当部署に相談してください。
※以下は一般的な情報です。学部・研究科により異なる場合があります。

	「留学」の手続きによる場合（交換留学）	「留学」の手続きによる場合（交換留学以外）	「休学」の手続きによる場合
留学先大学での「単位」取得	可	可	可
留学先大学での「学位」取得	不可	不可	場合により可
留学先大学での授業料	払わない	払う	払う
東京大学での授業料	払う	払う	払わない（ただし、休学開始時期にもよるので注意が必要）
修業年限	算入される	算入される	算入されない
本学での単位認定	可（ただし、所属学部・研究科が承認した場合）	学部・研究科により異なる	学部・研究科により異なる

［海外渡航の際の主な学籍上の手続き］

●「留学」: 留学の手続きをとる
●「休学」: 休学の手続きをとる
上記の手続きをとらず、海外渡航する場合は、海外渡航届などの手続きを行ってください。（例:夏季休業期間を利用し、海外大学に語学留学する場合など）

［海外の大学で修学する場合の、学籍上の「留学」と「休学」の違い］

「留学」の手続きによる場合と「休学」の手続きによる場合の違いは、右のチャートを参考にしてください。

外国の大学において取得した単位の取扱いに関する規則（学部学生）

《東京大学学部通則》

第3章 留学

■留学
第14条の2
学部長は、教育上有益と認めるときは、学生が休学[注釈1]することなく外国の大学において授業科目を履修し、単位を取得することを許可することができる。
2 前項の規定により外国の大学において修学する期間は、おおむね1年を限度とするものとする。

■単位の認定
第14条の3
学部長は、学生が留学の期間において修得した授業科目及び単位数については、前期課程においては10単位、後期課程においては30単位を超えない範囲で、本学における相当する授業科目及び単位数を修得したものとみなすことができる。

■申請手続
第14条の4
留学の許可及び単位の認定を受けようとする者は、所定の申請書[注釈2]を学部長に提出しなければならない。
2 留学許可及び単位認定等の申請手続については、各学部の定めるところによる。

■休学期間中に外国の大学において取得した単位の取扱い
第14条の5
第14条の2の規定にかかわらず、学部長は、教育上有益と認めるときは、学生が休学期間中に外国の大学において授業科目を履修し取得した単位を、本学における相当する授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
2 前項により修得したものとみなすことができる単位数は、第14条の3の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて前期課程においては10単位、後期課程においては30単位を超えないものとする。
3 前2項の規定による単位認定等の申請手続については、前条の規定を準用する。

注釈
1 休学して海外修学する場合は、休学期間は在学期間には含まれないため、その分、卒業の時期が遅れることになる。なお、休学期間中に海外の大学等で単位を取得した場合の本学における単位の取扱いは、第14条の5の規定により各学部の定めによるので、教務担当窓口で確認すること。
2 「留学許可願」を担当窓口に提出する。

留学についての詳細は、留学時に在籍する学部の担当窓口に事前に相談し確認してください。

※大学院学生については以下を参照してください。

●東京大学大学院学則　第28条（留学）
●東京大学大学院専門職学位課程規則　第23条（他の大学院における授業科目の履修等）

外国の大学において取得した単位の各学部・研究科の取扱い例

（2019年2月1日現在）

※詳細については、各学部・研究科の規則や、教務担当窓口で確認してください。

学部

法学部	法学部において開設されている授業科目に相当する場合には、これを「相当科目」として認定する。相当科目に該当しない場合において相当と認めるときは、随意科目として認定する。なお、対象とする大学は別に定めがある。
工学部	当該学科の審査により、科目配当表の単位として認定することができる。また、それ以外の科目についても学科で必要と認めた場合には、卒業単位に算入することができる。
文学部	外国の大学で取得した単位の認定は、「留学」した場合及び休学して外国の大学に「修学」した場合に限る。学部教務委員会において適切と判断された場合は、必修科目または必修科目以外の科目に認定され、卒業単位に含めることができる。
理学部	シラバス、成績等により審査をおこない、東京大学理学部規則別表に定める授業科目及び単位数に振り替えることができる。また、選択科目として、卒業に必要な単位数に含めることができる。
農学部	留学先大学の成績証明書、時間割およびシラバス等を指導教員又は学部委員に提出し単位認定を申請した場合、所属専修および教育会議の議を経て認定する。
経済学部	単位の認定・振替は、学生交流協定に基づき「留学」の身分により派遣された場合に限る。学部教務委員会・学部教授会で適切と判断された場合、本学部の基準 で単位数を換算の上、単位の振替・認定が認められる。学則・内規に沿って運用をしているので、単位の認定・振替を希望する者は、留学生・国際交流担当チームへ事前に相談に来ること。
教養学部（前期課程）	外国の大学で取得した単位の扱いについては必ず事前に教務課前期課程係（PEAK生は国際化推進係）で説明を受けること。
教養学部（後期課程）	本学と学生交流覚書を締結している大学に留学等をして取得した単位については、所定の期間内に単位認定を申請した場合、定められた上限単位数まで卒業単位として認定を受けることができる。詳細については「教養学部便覧」を参照のこと。
教育学部	原則として、全学学生交流に基づく交換留学協定校等、本学からの推薦に基づく派遣先大学に限る。選択科目の単位として一括して認定することができる。単位の認定は学務委員会の議を経た後、教授会で承認する。
薬学部	単位認定を希望する者は、事前に教務チームに相談すること。

大学院

法学政治学研究科	〈総合法政専攻〉においては、学生が留学先大学で単位を取得した科目の認定には、学生からの単位認定申請にもとづき、学務委員会で判断する。なお、休学中に外国の大学院において取得した単位についても、認定することは可能である。
医学系研究科	外国の大学院等で修得した単位の認定は、休学（休学理由が「海外の教育・研究施設において修学」の場合に限り）および留学の場合に、修士課程及び博士課程を通じて10単位を超えない範囲で、研究科として認定の可否を行うので、医学部大学院係へ相談すること。
工学系研究科	外国の大学院に「留学」して、当該大学院において専攻分野に関する授業科目を履修し、修得した単位は、申請により、本研究科における相当する科目・単位と して、修士及び博士後期課程を通じて10単位まで認定される。留学先大学で修得した単位は、当該大学院の履修時間及び採点基準を考慮して、本学の基準で単位数及び成績の換算をする（そのまま本研究科と同じ単位数として換算されるとは限らない）。※休学して外国の大学院に「修学」した時の、当該大学院で修得した単位は、本研究科の単位には認定されない。
人文社会系研究科	留学又は休学期間中に外国の大学の大学院において修得した科目及び単位は、修士課程及び博士後期課程を通して10単位を限度として、自由選択科目の単位に算入することができる。なお、休学の理由は「海外修学」に限る。
理学系研究科	外国の大学の大学院において専攻分野に関する授業科目を履修し単位を取得した場合、修士課程及び博士後期課程を通じて、10単位を超えない範囲で本研究科において単位を認定することができる。希望者は、渡航前に専攻事務室で手続に関する指示を受けること。
農学生命科学研究科	所属専攻および教育会議の議を経て認定する。手続きは留学前に行うこと。認定範囲、提出書類等は教務課へ相談すること。
経済学研究科	単位の認定・振替は、学生交流協定に基づき「留学」の身分により派遣された場合に限る。教育会議にて適切と判断された場合、本学部の基準で単位数を換算の上、単位の振替・認定が認められる。学則・内規に沿って運用しているので、単位の認定・振替を希望する者は、留学生・国際交流担当チームへ事前相談に来ること。
総合文化研究科	留学又は休学期間中に外国の大学の大学院において取得した単位は、10単位を超えない範囲で本研究科の授業科目及び単位として認定することができる。単位の認定を希望する場合は、留学又は休学期間終了後に総合文化大学院係（GPEAK生は国際化推進係）で必要な手続きをとること。授業科目及び単位の認定は、認定希望者からの申請を専攻等で審査のうえ、研究科教育会議で決定する。なお、本研究科の授業科目及び単位の認定の申請ができる休学の理由は、原則として海外修学のみとする。
教育学研究科	留学期間中に外国の大学の大学院において取得した科目及び単位は、研究科教育会議の議を経て、本研究科における選択科目に相当する科目及び単位として認定することができる。ただし、認定できる単位数は、修士・博士課程を通じて10単位を超えないものとする。単位の認定を希望する場合は、学生支援チームにあらかじめ相談すること。
薬学系研究科	単位認定を希望する者は、事前に教務チームに相談すること。
数理科学研究科	単位認定を希望する者は、事前に教務係に相談すること。
新領域創成科学研究科	外国の大学院等で修得した単位の認定は、休学（休学理由が「海外の教育・研究施設において修学」の場合に限り）および留学の場合に、修士課程及び博士後期課程を通じて10単位を超えない範囲で、研究科として認定の可否を行うので、新領域創成科学研究科教務係へ相談すること。
情報理工学系研究科	当該専攻の審査により、修士及び博士後期課程を通じて10単位を限度として修了単位に認定することができる。留学先大学で修得した単位は、当該大学院の履修時間及び採点基準を考慮して、本学の基準で単位数及び成績の換算をする（そのまま本研究科と同じ単位数として換算されるとは限らないので注意すること）。
学際情報学府	留学又は休学期間中に外国の大学の大学院において修得した科目及び単位は、本学府の承認を得ることにより、修士課程及び博士課程を通じて、10単位を超えない範囲で、他研究科科目の単位として、認定することができる。単位認定を希望する者は、事前に学務係に相談すること。
公共政策学教育部	公共政策学教育部において、教育上必要とみとめる時は、他の大学院において履修した授業科目について修得した単位を、専門職学位課程の修了要件として定める単位数の2分の1を超えない範囲内で認定することができる。博士後期課程において単位認定を希望する者は、事前に大学院係に相談すること。

4. 語学能力検定試験

留学する場合、留学先大学や東京大学が求める語学能力の基準を満たす必要があります。語学能力試験は、受験予約が取りにくいことがあります。また、募集開始から書類提出締切までの期間が非常に短いプログラムもあります。締切日までにスコアを取得できない学生が例年見受けられますので、短期・長期に関わらず留学を考えている場合は早めに受験し、有効期限を満たすスコアを常に所持しておくようにしましょう。

英語圏への留学

一般的に英語圏の大学への留学にはTOEFL iBTやIELTS（Academic Module）のスコアの提出が必要です。TOEICや英検（実用英語技能検定）は日本の就職活動等では広く用いられますが、海外大学への留学の際には語学能力証明として認められないケースも多いため、注意してください。また、TOEFL PBTやTOEFL ITPも公式スコアとして認められないケースがあります。

	TOEFL iBT	IELTS（Academic Module）
概要	米国を始め世界各国の大学等で英語力の証明として利用されており、150を超える国や地域の10,000以上の大学、機関、その他の団体が TOEFL テストスコアを受け付けている。	英国、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドのほとんどの教育機関で受け入れられており、米国でも広がっている。英語で授業を行う大学や大学院に入学できるレベルに達しているかどうかを評価するもので、一般的に、大学や大学院において英語で学びたい方はAcademic Moduleの結果が必要となる。
スコア	0～120（1ポイント刻み）	1.0～9.0（0.5ポイント刻み）
試験日	ほぼ毎週末、年間50回以上	東京では毎月3回程度実施
受験料	US $235（通常申込時）	25,380円
スコア有効期限	2年間	2年間

関連ウェブサイト: TOEFL https://www.ets.org/jp/toefl IELTS http://www.eiken.or.jp/ielts/

※2019年2月1日現在の情報を掲載しています。

学内で開講している「スペシャル・イングリッシュ・レッスン（SEL）」（p33参照）では、日常会話、プレゼンテーション、TOEFL対策講座等の有料のプログラムを提供しています。留学応募前または留学が決まった後の英語力向上に活用してください。

英語圏外への留学

留学先の大学によって必要な語学能力の基準が設定されている場合があります。下表に示す語学能力試験は一例ですが、一般的に日本語話者向けの検定（例:実用フランス語技能検定試験 等）は海外大学への留学の際に語学能力として認められないケースも多いため、注意してください。また、語学能力試験によって有効期間が異なるので、必ず試験実施団体のウェブサイト等を確認しましょう。

（英語以外の語学能力試験例）

語学能力試験	言語
HSK	中国語
TOPIK/KLAT	韓国語
DELF-DALF/TCF/TEF	フランス語
DELE	スペイン語
Test DaF/Goethe-Zertifikat/Telc	ドイツ語

5. 安全と危機管理

海外では、不慣れな場所で、どこにどのような危険があるのかが十分に把握できないこともあるため、交通事故・窃盗・強盗・詐欺など、様々な被害に遭う可能性が高くなります。危険を感じる状況等をできるだけ避け、常に危険等を予測してから行動するよう心がけてください。
学生が海外渡航する機会が増えていること、また、今後のさらなる増加が予想されることを受け、東京大学の学生及び教職員のための『海外渡航危機管理ガイドブック』を作成しています。海外に渡航する学生は必ず『海外渡航危機管理ガイドブック』を熟読し、海外でのリスクについて事前に知り、十分に準備するようにしてください。
『海外渡航危機管理ガイドブック』
https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/voyage-safety.html

保険への加入

海外渡航中の保険については、必ず出発前に、出発から帰国までの期間をカバーする海外旅行保険・留学保険等に加入してください。プログラムによっては、公益財団法人日本国際教育支援協会（JEES）の学研災付帯海外留学保険「付帯海学」に加入することが参加の条件となります。（グローバルキャンパス推進本部担当のプログラムについてはこれに該当します。）
また、留学先大学等から指定する保険に加入することを求められた場合は、併せて保険に加入してください。
※日本の海外旅行保険・留学保険等は出国後には加入できないため注意してください。

海外安全危機管理サービス「OSSMA, Overseas Student Safety Management Assistance（オスマ）」

OSSMAは、海外滞在中に困ったことが発生した際に24時間365日・日本語・英語により適切なサポートを提供するサービスです。サービスの内容は、病気や怪我の電話相談、安否確認、ご家族渡航サポート等となっており、東京大学では、海外に渡航する学生向けに試行導入しています。詳しくは、以下のホームページをご覧ください。
https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/intl-activities/study-abroad/ossma.html

所属学部・研究科での届け出

留学等により海外渡航する際には、渡航目的により「留学許可願」、「海外渡航届」、「休学願」等の提出が必要になります。所属学部・研究科の担当部署に確認し、必要な手続きを行ってください。

健康管理と安全管理に関する事前準備

『海外渡航危機管理ガイドブック』を参考に、海外において安全、快適に研究・学習等を行っていくうえで欠かせない「健康管理」と「安全管理」の両面から、渡航前の危機回避対策を必ず行ってください。（健康診断、歯科検診、常備薬の準備、予防（ワクチン）接種、渡航先に関する情報の事前収集、緊急対応リストの携行など。）
なお、東京大学の保健センターでは、渡航前医療相談を実施していますので活用してください。
トラベルクリニック
http://www.hc.u-tokyo.ac.jp/guide/internal-medicine/travel/

「在留届」の提出・「たびレジ」の登録

日本国籍の方が海外に3ヶ月以上滞在する場合は、必ず最寄りの日本大使館・領事館に「在留届」を提出してください。（旅券法第16条により義務付けられています。インターネットによる提出も可能です。）万一、海外で事件・事故や思わぬ災害に巻き込まれた場合、日本国大使館や総領事館はこの「在留届」をもとに日本人の所在地や緊急連絡先を確認して援護します。※転居・帰国の際にも必ず届け出てください。
また、外務省は、3ヶ月以内の滞在を対象に、2014年7月以降「たびレジ」システムを導入しました。同省の専用サイトに必要事項（旅行日程・滞在先・連絡先）を登録することにより、滞在先の最新情報や緊急事態発生時の連絡メール、あるいは、いざという時の緊急連絡等の受け取りが可能です。東京大学は、この登録を強く推奨します。
外務省ホームページ
http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/todoke/index.html

海外渡航中の報告・連絡・相談

海外渡航中、何か問題が生じた場合や相談事があるような場合、また緊急事態等が発生した場合は、速やかにプログラムの担当者や東京大学の担当者に報告・連絡・相談してください。また万一生命、身体が危険にさらされるような事態が生じた場合は、渡航先の在外公館に援護を求めてください。
現地で天災、新型インフルエンザ等の感染症、テロ等が発生した場合は、たとえ自分には何も被害がなくても、安否について速やかに東京大学の担当者に連絡してください。なお、家族にも定期的に連絡を取るようにしてください。

その他

海外でも東京大学の学生であることを常に自覚し、行動や振る舞いには十分気をつけましょう。
その他、プログラムの担当者、本学所属学部・研究科、指導教員等の指示に従い、安全と危機管理に十分注意してください。

6. 留学と就職活動

留学を考える際に、就職活動のことが気になる学生も多いでしょう。留学も就職活動も悔いなく両立するためには、留学が就職活動に与えるとされるメリットやデメリット、就職活動をする年度の採用スケジュールや留学先で参加できる就職イベントなど、事前の幅広い情報収集が重要です。

留学前に大学の窓口を利用しましょう

就職活動のスケジュール（企業の採用情報公開の時期、面接などの選考開始時期）についてキャリアサポート室などを利用し、常に最新の情報を得られるように準備しておきましょう。

留学前に情報収集しておくと良いこと

●就職活動のスケジュール　●帰国後の履修・卒業計画　●外資系・ベンチャー企業など独自の採用活動を行う企業情報

情報収集の機会

●留学先の大学や都市のキャリアフォーラム　●各種キャリアガイダンス（キャリアサポート室主催、留学経験者対象）
●海外留学経験者向け就職情報サイト

大学の留学フェアを利用して先輩や留学担当の方などから話をたくさん聞き、より多くの情報を収集しましょう。
留学先や留学から帰国する時期・卒業の予定などそれぞれの事情にあわせて、ご自身の就職活動を考えてみましょう。
本郷のキャリアサポート室では就職活動のスケジュールをはじめ、留学か進学か迷ったときや、企業分析や自己理解などの相談に専門のキャリアアドバイザーが個別にお応えします。（ただし、英語のエントリーシートの添削は行っていません。）OBOG訪問用名簿や先輩の進路情報もありますので、利用してください。
キャリア相談は予約優先ですので、キャリアサポート室のウェブサイトからお申し込みください。

ウェブサイトにアクセス

https://www.careersupport.adm.u-tokyo.ac.jp/

学生体験記

氏名：小田 碩規さん
所属・学年（留学開始時）：文学部3年
留学先大学：ダラム大学
留学期間：2017年10月～2018年6月
（9ヶ月間）
就職先の業界：経営コンサルティング

留学生のための就活の祭典、キャリアフォーラムのススメ

キャリアフォーラムの3日間では面接を一気に行うため、短期間で内定を獲得することが可能です(エントリーシートやテストの受験など事前準備は必要です)。会場では多くの企業が説明会やセミナーを開催しています。通常の就活だと東京を駆け回って会社説明会に赴かなければならないため、業界研究をするにはまたとない機会です。さらに、卒業年度が合わない方でも、帰国してから就活を開始する前に、面接の練習や自分に合う企業を見つける良い機会となるのでぜひ参加をおすすめします。私自身は留学中の11月にボストン、4月にロンドンの回に参加しました。エッセイ等に追われながら就活しなければならない、4月のイースター休暇明けは気分の切り替えが難しい、10社以上出しても企業から連絡がなく不安になることもある、1日に3,4回面接して心の余裕がなくなるなど、困難も多いので、精神的にも肉体的にもタフになることが求められます。私の場合一緒に行った友人のおかげで心に余裕ができました。寝る前に共にフェルミ推定の問題を解いたのは良い思い出です。ちなみに基本的にスーツ着用ですので、日本からスーツを持っていくか、留学先で調達してキメていくのも良いでしょう。

学生体験記

氏名：小坂 かい里さん
所属・学年（留学開始時）：経済学部3年
留学先大学：
University College London（UCL）
School of Management
留学期間：2017年9月～2018年6月
（10ヶ月間）
就職先の業界：デジタルコンサルティング

Are you owning the narrative?

いきなりですが、どのような就活をしようと思っていますか？留学前の私は何となくの「正解」を目指すのだろうと思っていました。同じような方はいるでしょうか？留学中は周囲と自分を俯瞰する機会が豊富にあります。「ボスは自分がいい」と言う起業予定の学生や「創造力を発揮したいからこそマニュアルが欲しい」と言う心理学専攻の学生等々色々な意見を聞いていると、『高給与』や『職場環境の多様性』のような当然重要だと思える基準から一旦距離を置きこの私はどう仕事したいんだ?と自由に考えられました。また各授業テーマが非常に具体的な分、学んできたことをそのまま仕事という場で発展させやすいので、「まず好ましいとされる業界や企業を見てから、それらが自分の興味にどれ程合うか」ではなく「この知識が今私には備わっていて、こう展開させていきたいので、それを可能にするのはどこだろう」という姿勢で就活をしている学生が多く、「そういう風に就活を進めていいのか」と個人的にはとても解放されました。各々の常識や文脈を持つ人々と接することで、自分の思考を疑い確かめ自分のものとして明確にする。就活を含め将来を導いていく上でこれ以上ない財産になる力を留学を通して身につけることができたと思います。

7. 卒業後の大学院留学

ここまで、交換留学や3ヶ月未満の留学といった、東京大学在学中の留学について紹介してきました。東京大学では現在、主に在学中の留学をサポートしていますが、卒業後の海外の大学院への留学についても情報提供などを行っています。

海外大学院のシステム

海外の大学院には大きく分けてGraduate Schoolと、Professional Schoolの二つの種類があります。Graduate Schoolでは、東京大学在学中に学んだ学術研究をより専門的に深めることができます。一方、Medical、LawやBusinessに代表される Professional Schoolでは、職業に直結した教育を受けることができます。世界各国で教育システムが異なるように、海外の大学院のシステムは日本と異なることが多いので十分な情報収集が必要です。
大学院レベルで提供される学位は、修士号（Master's Degree）と博士号（Doctoral Degree or Ph.D.）があります。
修士課程は、通常1 ～2年間の課程です。大きく分けると「アメリカ型」と「イギリス型」に分けられ、その主な特徴は以下の通りです。
アメリカ型：入学時期は8月末～9月が一般的。修了までに基本的には2年を要す。ほとんどの大学が2学期制を採用。
イギリス型：入学時期は9月～10月が一般的。通常1年で修了することができる。ほとんどの大学が3学期制を採用。
博士課程は、通常3～8年間の課程です。プログラムによっては大学の学部課程を修了後、修士課程を経ず、直接博士課程に出願することも可能です。

大学院留学の情報収集

留学先の国や大学によって制度が異なる場合が多く、学士課程時の専攻と異なる分野での留学も可能なため、事前の情報収集が重要です。東京大学では、以下の方法で情報を入手することができます。

● Go Global ウェブサイト
「留学プログラム」のページの一覧表で、東京大学宛に案内のあった大学院留学プログラムを随時紹介しています。また本ガイドブックの「留学にかかる費用と奨学金」（p38参照）で大学院留学に関する奨学金情報も提供しています。
● 説明会等の大学院留学関係イベント
Go Global ウェブサイトやSNS（p36参照）で、海外大学や各国大使館などが主催する説明会等、大学院留学関係のイベントを紹介しています。東京大学と関係の深い大学については東京大学で説明会が行われる場合もあります。

UT-OSAC（Overseas Study Advisory Community, the University of Tokyo）

東京大学の卒業生を中心とした団体であるUT-OSACでは、米国大学院学生会と協力し、海外大学院留学に関する情報提供や説明会等の開催、およびそのサポートを行っています。詳細は米国大学院学生会のウェブサイトをご覧ください。　http://gakuiryugaku.net

ウェブサイトにアクセス

海外大学院留学説明会主催者から

南出将志
（2013年工学部社会基盤学科卒業　2014年工学系研究科社会基盤学専攻修士課程修了
2018年ペンシルバニア州立大学気象学部博士号取得 NASAジェット推進研究所ポスドク研究員）

私たちは海外大学院留学を就職、進学に次ぐ第三の選択肢と考えています。これは日本での「既定のコース」とは異なるためハードルが高く、あまり身近でない選択肢かもしれません。しかし、その先には刺激的で数奇な体験と、大きく広がる世界観があなたを待っています。年二回（夏・冬）の説明会開催時には、世界トップクラスの大学院から多様な留学生や卒業生、教職員を講演者として招き、海外の大学院への出願方法や、利点、欠点、実際の生活の様子などを紹介しています。留学を通じて世界で勝負してみたい皆さん、ぜひ説明会に足を運んでみてください。

大学院留学のスケジュールと必要なもの

海外の大学院への出願プロセスは、国内大学のものとは全く異なります。特に、アメリカやヨーロッパを中心として「GPA」「英語のスコア」「推薦状」「エッセイ」などを求められることが多いので、ここではそれらについて紹介します。具体的な点数や、そのほかに提出を求められるものなどは、出願先によって大きく異なりますので、詳しくは出願先の大学院のウェブサイトなどを直接確認しましょう。
●GPA:Grade Point Averageの略、授業成績の平均点を指します。後から取り戻せないものなので、早い段階から意識しておきましょう。
●英語のスコア:TOEFLやIELTSが該当します。特にアメリカの大学院出願に必要なTOEFL iBTは、大学の講義や議論といった状況が想定されており、出願時だけでなく、進学後の英語対策にも効果的です。また、英語以外の共通試験として、アメリカの殆どの大学院ではGREの受験が求められます。
●推薦状:計三通の提出を求められることが多いです。受験者の経験や能力、才能、人柄に関する記述が、具体的に書かれていることが大事なポイントとなります。自身の強みを多様な観点から評価頂けるように、先生方との関係を築いてください。
●エッセイ:志望動機や、自身の研究での強みなどをまとめた文章です。具体的に書けるように、専門分野の勉強を積み重ねましょう。
●その他:研究業績（インパクトファクターの高い雑誌の筆頭著者論文など）や、外部奨学金などを持っていると高く評価されます。また、事前に受験先（指導教官の候補等）に連絡を取り、出願の意思表示をすると共に、自身の能力やどのような内容の研究が可能であるか等について、積極的な情報交換を行うことも非常に効果的です。
最終的な合否の判断は、これらの総合評価となります。出願年は出願書類や奨学金の応募書類、業績を上げるための卒業（修士）研究に集中できるように、それまでにGPAや英語のスコアなどの準備を整えておきましょう。

8. よくある質問

【留学準備】

Q. 留学を希望する場合、いつ頃から準備を始めればよいですか?

（全学交換留学等長期留学の場合）およそ留学の1年前に募集が行われるので、その時期に応募できるよう、早めに情報収集や語学能力試験の受験を進めておきましょう。
（サマープログラム等短期留学の場合）グローバルキャンパス推進本部が担当するサマープログラムの場合、プログラムによって異なりますがその年の1～2月及び4～5月に募集が行われるプログラムが最も多いので、その時期に応募ができるよう、早めに情報収集や語学能力試験の受験を進めておきましょう。個人で応募するサマープログラムも、早いものでは2～3月に応募が締め切られるものもありますが、中には6月頃まで申し込み可能なものもあります。

【学籍・単位】

Q. 1学期～1年の間留学しても4年間で学部を卒業できますか?

交換留学の場合、期間や時期、単位取得や単位認定の状況によっては、4年で卒業が可能な場合もありますが、1年間の留学だと留年が必要となるケースも多くあります。所属学部に確認の上、計画的に授業履修や留学の準備を行ってください。ただし、単位の取り扱いは学部ごとに異なりますので、必ず交換留学の計画段階で所属学部に確認してください。（p42-43参照）

Q. 現在休学しているのですが、全学交換留学や東京大学のプログラムに応募できますか?

留学時に休学から復帰していれば応募可能なプログラムもありますが、必ず各学部・研究科の担当部署に確認をして申請してください。

【応募条件・選考】

Q. 前期課程の学生も全学交換留学に参加できますか?

できます。ただし、前期課程の科目の履修計画に関する留意点や、外国の大学で取得した単位の扱いについては必ず教務課前期課程係（PEAK生は国際化推進係）で事前に説明を受けるようにしてください。

Q. 英語に自信がなくても参加できる留学プログラムはありますか?

語学力向上目的のプログラムもありますので、Go Global ウェブサイトなどでよく調べてみてください。一口に留学といっても、プログラムごとに目的や内容・レベルは様々ですので、自分のイメージだけで判断せず、事前にプログラムをよく調べて自分に適したプログラムに参加するようにしましょう。

Q. 全学交換留学の学内選考はどのように行われますか?

全学交換留学の派遣候補者は、各学部・研究科を通じた申請を経て、学業成績・語学能力・申請書の記述内容や面接等によりグローバルキャンパス推進本部で総合的に選考審査され、決定されます。（2019年4月1日現在）

Q. Go Global ウェブサイトには締切日や提出先が記載されていない場合がありますが、どこで確認できますか?

東京大学では多くのプログラムで、自分の所属している学部・研究科に応募書類を提出することになります。締切日や提出先は各学部・研究科ごとに異なりますので、Go Global ウェブサイト上には記載されていないことがあります。各学部・研究科のウェブサイトや掲示板、窓口等で必ず確認するようにしてください。

【費用】

Q. 留学に行く場合、費用はどのくらいかかりますか?

（交換留学の場合）行く地域にもよりますが、日本で生活する場合とあまり変わらない程度の費用で留学することができます。渡航費や生活費などは必要ですが、東京大学に授業料を納めていれば、留学先での授業料は不要となるためです。交換留学の場合、協定校の寮が利用できる場合が多く、奨学金制度も充実しているので、費用を抑えて留学することも可能です。（p38-39参照）
（サマープログラム等短期留学の場合）費用はプログラムによって大きく異なります。ほぼ無料で参加できるものから、数十万円のプログラムまで様々ですので、よく調べ、予算に応じて参加プログラムを検討してください。（p16-18参照）

Q. 現在申し込もうと考えているプログラムの詳細や、過去の参加者の経験はどこで知ることができますか?

まずは留学先大学が作成しているプログラムのウェブサイトやパンフレットをよく読んでみてください。また、グローバルキャンパス推進本部が担当するプログラムでは、Go Global ウェブサイト上に過去の参加者による詳細な報告書・留学体験記を掲載しているので、確認しましょう。また、派遣前のオリエンテーション等で過去の参加者と情報交換できる場合もあります。
https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/report-list.html

留学体験記にアクセス

【その他】

Q. 各プログラムの応募の倍率はどのくらいですか?

Go Global ウェブサイトの統計資料のページで応募状況や派遣実績を公開しています。人気が集中し倍率が高くなる留学先もあるので、併願ができる場合は複数のプログラムに併願することをおすすめします。

Q. 短期留学プログラムなどに参加したいのですが、東大の授業やテスト期間と時期が重なっている場合はどうなりますか?

海外の大学は6～7月が夏休みのところが多いため、その時期に開催されるプログラムも多くあります。自分の授業・試験日程などを応募前に十分確認し、参加が可能なプログラムに応募してください。留学のために東京大学の授業や試験に出席できない場合の扱いは、留学時に所属する学部・研究科の判断によります。留学プログラム等への参加に際して、特別な配慮が行われるとは限りませんので、学部・研究科等の窓口で事前に十分確認し、納得した上で参加申請を行ってください。

Q. 留学について相談したいのですが、どこで相談に乗ってもらえますか?

現在募集中のプログラムに関する具体的なことについては、所属している学部・研究科の担当部署や、募集要項に記載されている問い合わせ先に確認するようにしましょう。
その他、留学に関する全般的な質問・一般的な質問は本郷キャンパスのGo Globalセンター内 留学生・留学情報サポートデスクで受け付けています。（p37参照）
また、特定の学問分野の留学事情などについては、所属している学部・研究科の担当部署や、指導教員、先輩などに相談してみるのもよいでしょう。

［編集・発行］2019年4月1日／東京大学グローバルキャンパス推進本部
［E-mail］studyabroadfair.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp ［Web］https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/

本ガイドブックの情報は、編集時点での情報です。変更される場合がありますので、最新の情報はウェブサイト等で確認してください。